

ものづくり産業理解促進事業

アンケート調査報告書

平成 23 年 1 月

北海道経済部労働局人材育成課

ものづくり産業理解促進事業 アンケート調査報告書

目次

I	ものづくり産業理解促進事業アンケート調査概要	…	1
II	アンケートにご協力いただいた保護者の概要	…	2
III	子供の進路や就業観に関する保護者の意識	…	5
IV	まとめ	…	28
	参考資料（アンケート用紙）	…	31

I ものづくり産業理解促進事業アンケート調査概要

1. 調査目的

小中学生や高校生など次世代人材の進路決定に大きな影響力を持つ保護者の、子供に対する進路や就業観、ものづくり産業に対して普段抱いているイメージを明らかにし、その結果を人材育成における課題検討の際の基礎資料とするため、実施したものである。

2. 調査実施期間

平成22年8月19日～平成23年1月28日

3. 実施機関

調査事業実施主体者 北海道経済部労働局人材育成課

調査事業受託者 キャリアバンク株式会社

4. 調査対象及び調査方法

対 象 : 北海道PTA連合会、北海道高等学校PTA連合会及び札幌市PTA協議会各支部、各地区等におけるPTA活動の場において実施した「ものづくり産業理解促進ミーティング」(以下、「ミーティング」という。)に参加した保護者等

方 法 : 北海道PTA連合会 5ブロック (5箇所)
北海道高等学校PTA連合会 12支部 (15箇所)
札幌PTA協議会 1地区 (6箇所) 計26箇所

※北海道高等学校PTA連合会は13支部あり、そのうち胆振支部については、ミーティングの実施にあたり支部管内のすべてのPTAと調整したが、日程等が合わず実施できなかった。

5. 回収数

総数 1,240枚

内訳

道 央	: 720枚 (58.0%)	※内、2枚の無回答用紙を含む。
道 南	: 173枚 (14.0%)	
道 北	: 162枚 (13.1%)	
釧 根	: 53枚 (4.3%)	
十 勝	: 72枚 (5.8%)	
オホーツク	: 60枚 (4.8%)	

II アンケートにご協力いただいた保護者の概要

図 - 1

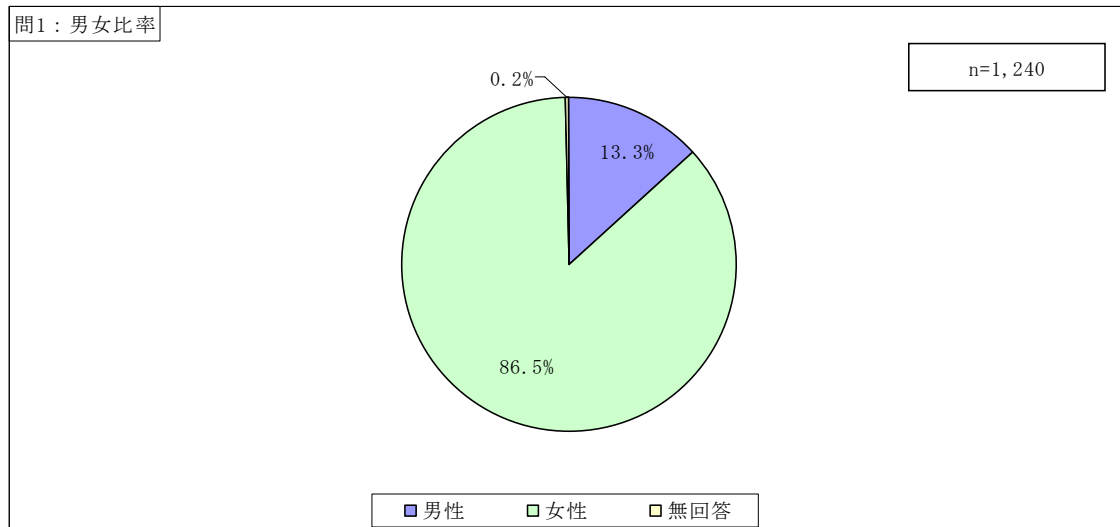


図 - 2

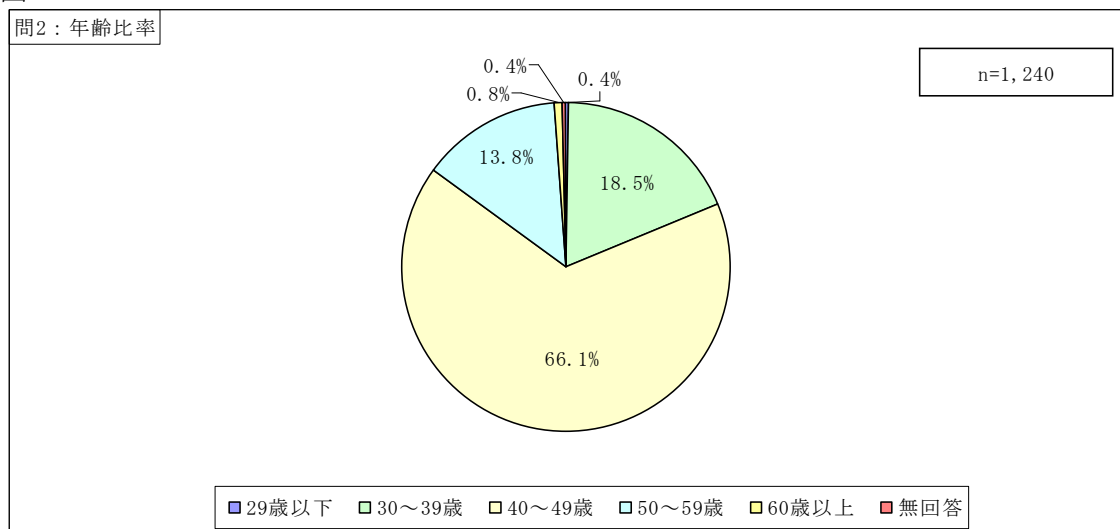
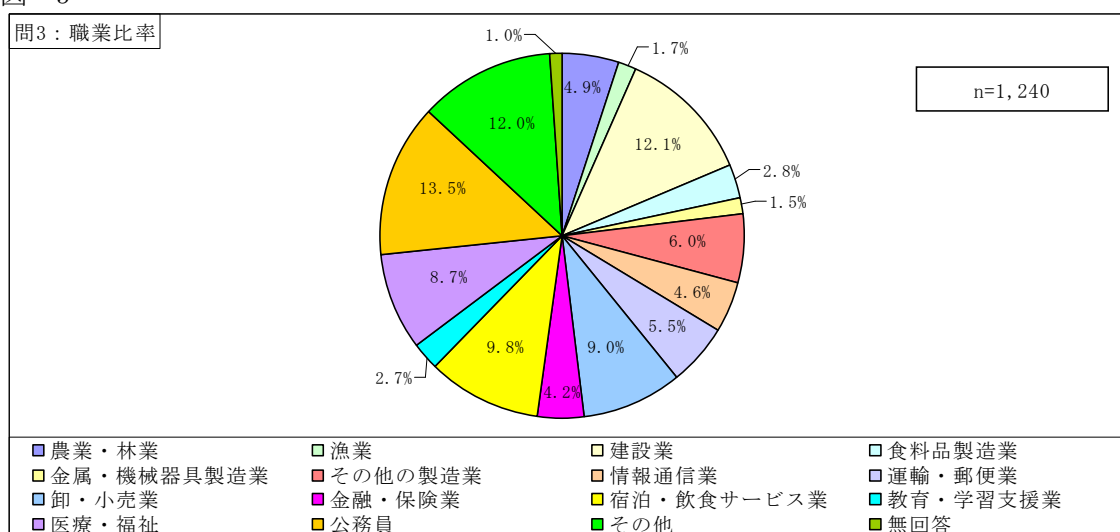


図 - 3



- その他
- ・町役場臨時職員
- ・整備
- ・機械整備
- ・電気供給、電力製造
- ・研究職
- ・団体職員
- ・士業
- ・行政書士
- ・電力
- ・派遣社員
- ・自由業
- ・市営運動施設の運営、管理の財団
- ・不動産業
- ・独立法人職員
- ・無職
- ・大学教員
- ・整備業

図 - 4

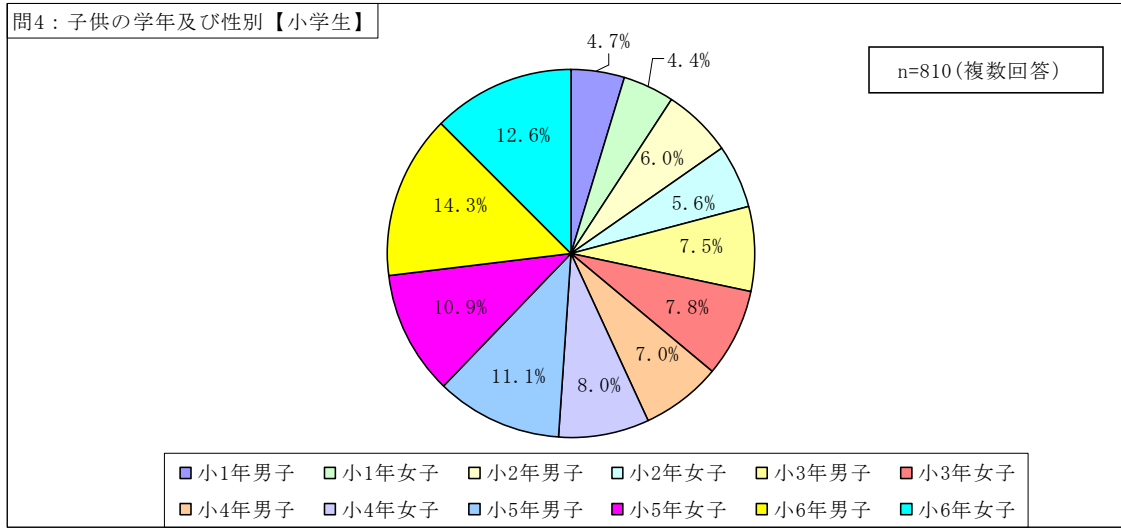


図 - 5

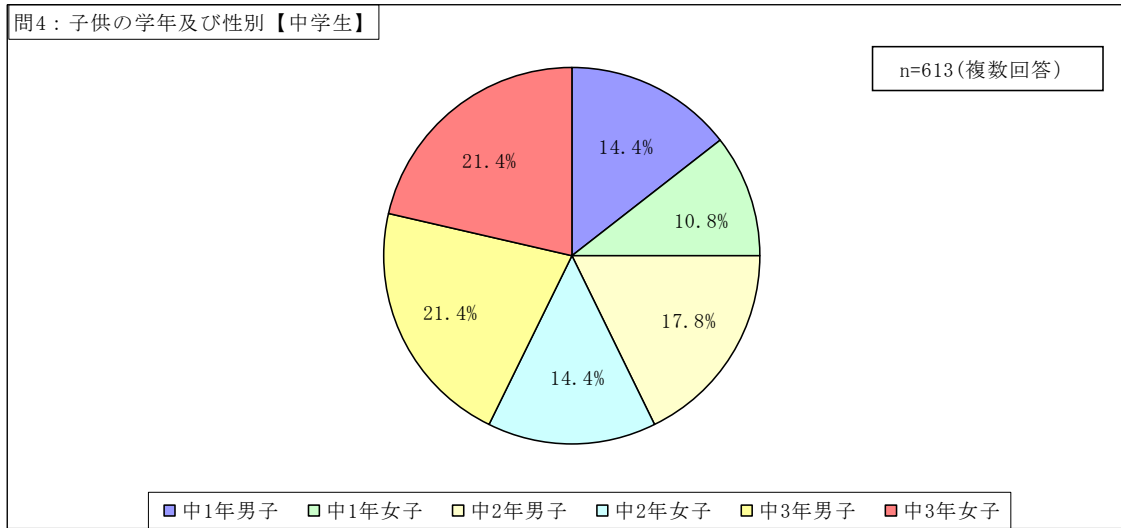


図 - 6

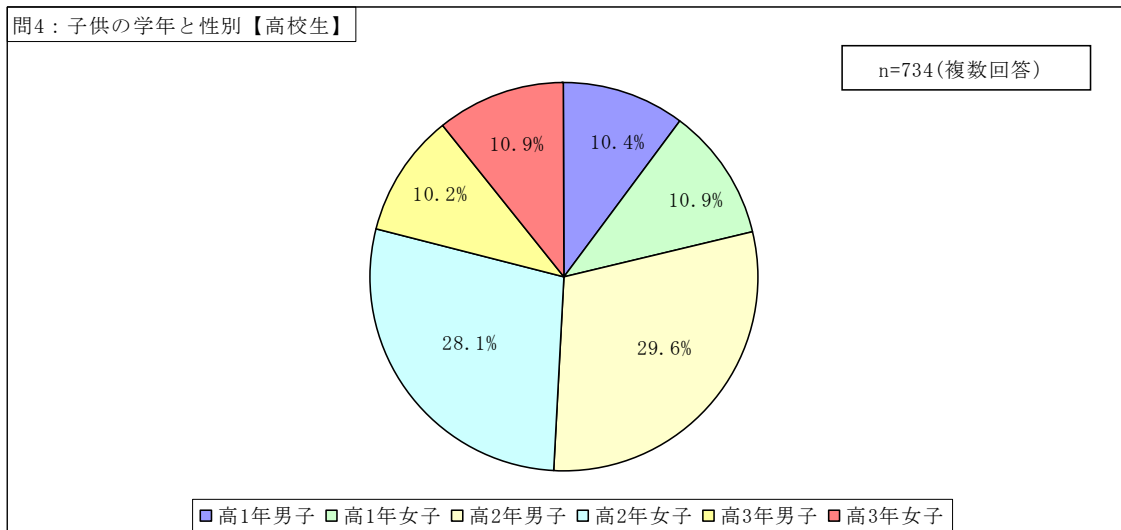


図 - 7

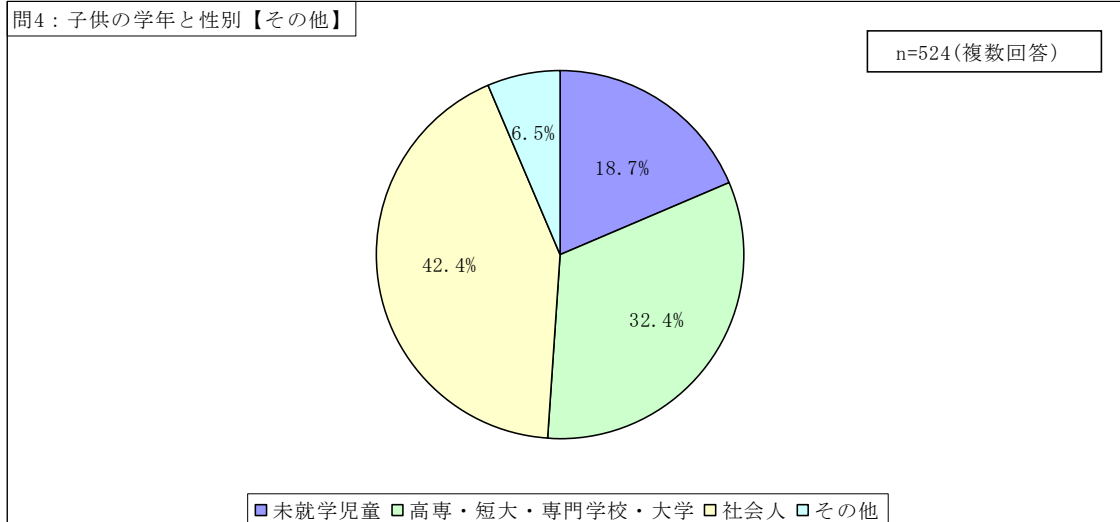


図 - 8

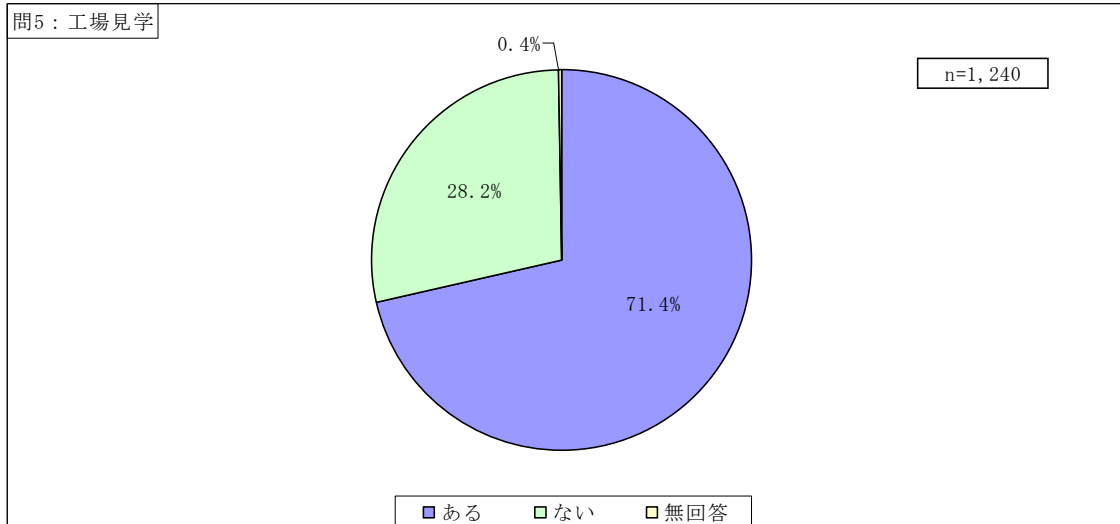
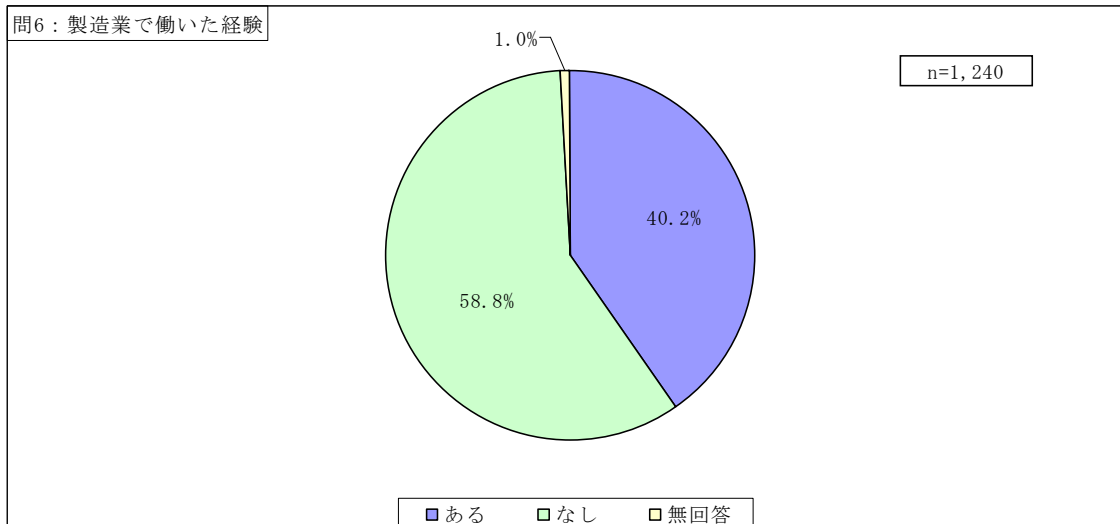


図 - 9

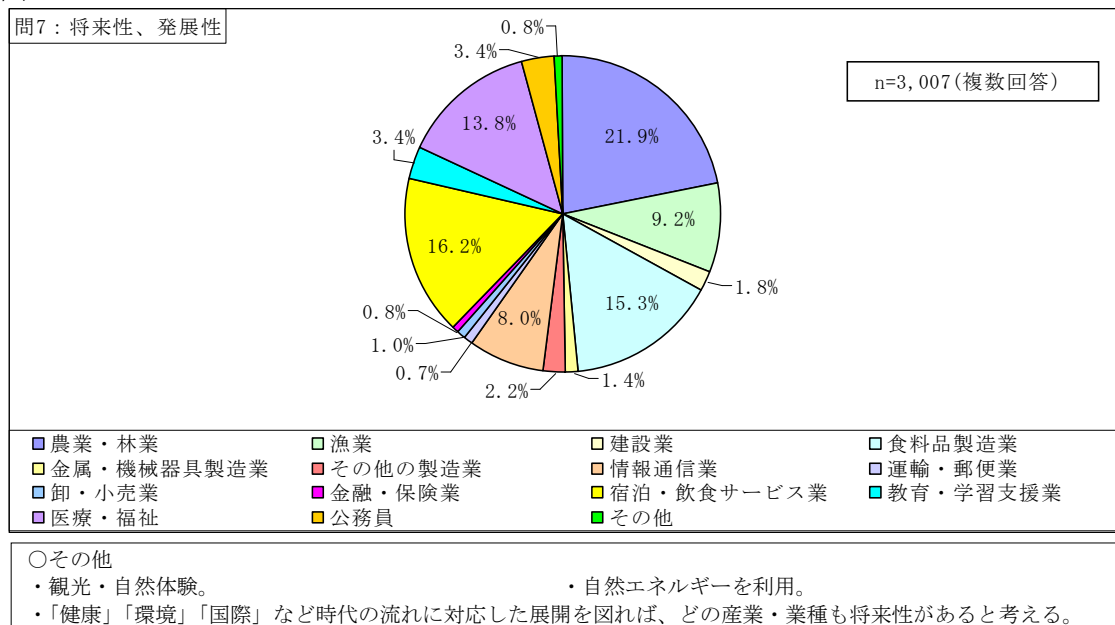


Ⅲ 子供の進路や就業観に関する保護者の意識

問 7. 北海道における将来性や発展性が感じられる産業

- ・将来性、発展性を感じる産業の一番は「農業・林業」(21.9%)であり、続いて「宿泊・飲食サービス業」(16.2%)、「食料品製造業」(15.3%)の順となっている。
- ・上記産業に「漁業」(9.2%)を加えると全体の62.6%となり、保護者の6割以上の方々が「食」や「観光」に関連する産業の将来性に期待していることが伺える。
- ・製造業については、「食料品製造業」のほかは「金属・機械器具製造業」(1.4%)、「その他製造業」(2.2%)となっており、製造業全体では18.9%で「農業・林業」に次ぐ二番目の数値となっている。
- ・このほか「医療・福祉」(13.8%)が四番目に、「情報通信業」(8.0%)が六番目になっており、「医療・福祉」や「IT関連産業」に対する将来性への期待も高くなっている。

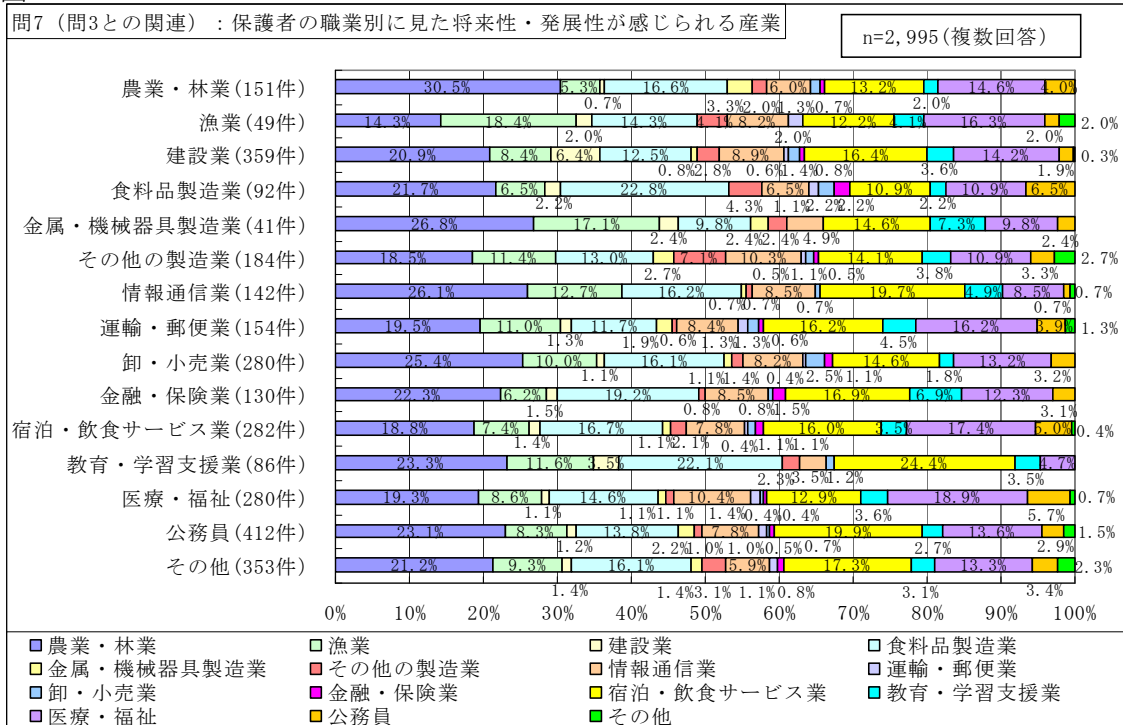
図 - 10



問 7【問 3「保護者の職業」との関連】

- ・問 3 の保護者の職業との関連(図 - 11)で見ると、ほとんどの業種においても「農業・林業」「宿泊・飲食サービス業」「食料品製造業」が一番目から三番目までを占めており、保護者の職業に関係なく将来性を期待されている。
- ・一方で、保護者が就いている職業の将来性に対して期待する割合が高い傾向も伺える。

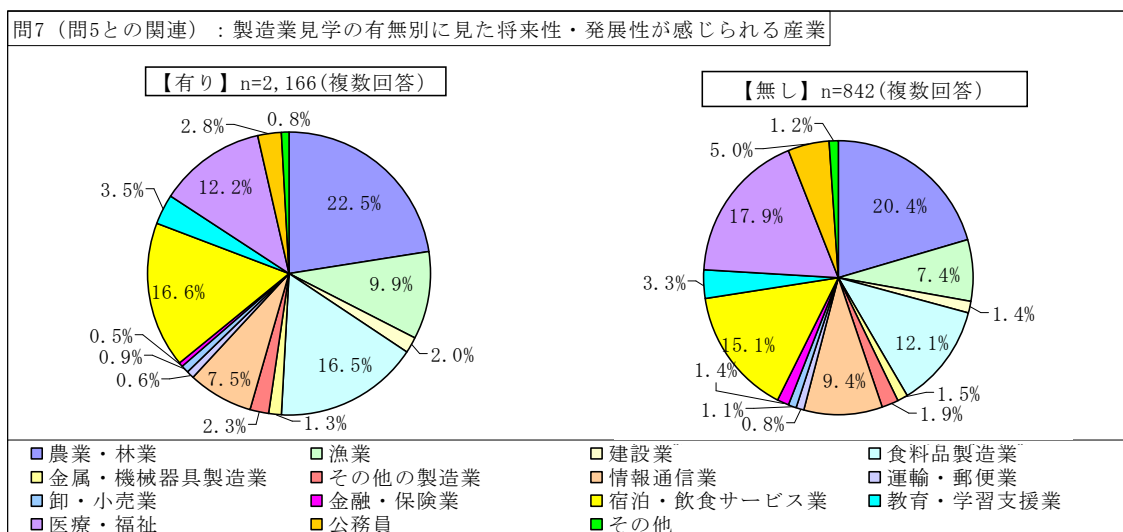
図 - 11



問7【問5「製造業見学の有無」との関連】

- ・問5の製造業見学の有無との関連 (図 - 12) で見てみると、見学の経験がある保護者において、製造業に将来性を感じる方は20.1% (「食品製造業」「金属・機械器具製造業」「その他製造業」の合計) となっている一方、経験のない保護者においては15.5%となっており、見学経験のある保護者の方が4.6ポイント高くなっている。
- ・内訳を見ると「食品製造業」については見学経験のある保護者が16.5%であるのに対し経験のない保護者が12.1%と見学経験のある保護者が4.4ポイント高くなっている。
- ・しかし、「金属・機械器具製造業」「その他製造業」に関しては、見学経験の有無によって大きな変化は見られなかった。

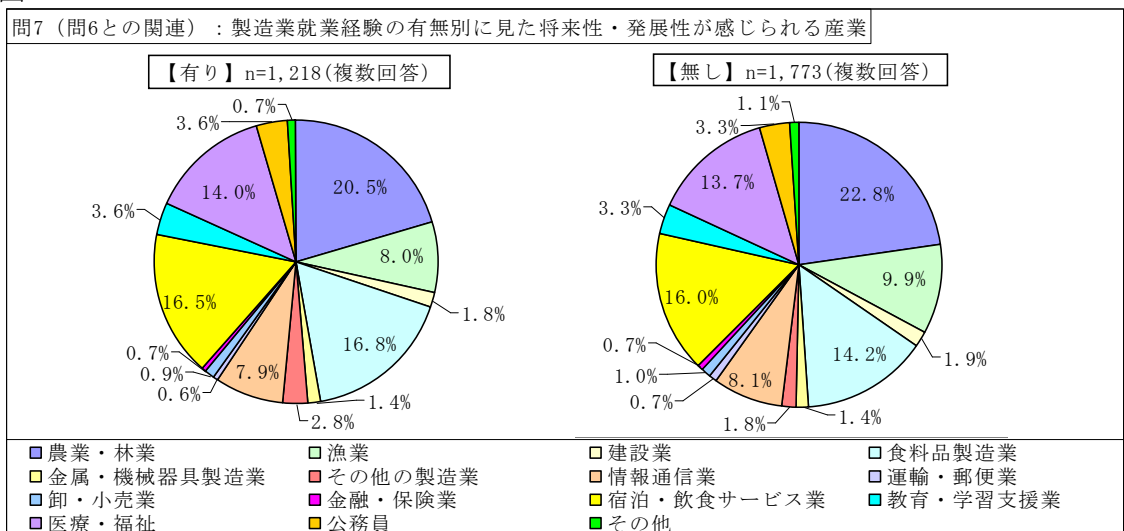
図 - 12



問7【問6「就業経験の有無」との関連】

- ・就業経験の有無との関連（図-13）で見ると、就業経験がある保護者において、製造業に将来性を感じる方は21.0%（「食品品製造業」「金属・機械器具製造業」「その他製造業」の合計）となっている一方、経験のない保護者においては、17.4%となっており、就業経験のある保護者の方が3.6ポイント高くなっている。
- ・内訳を見ると「食料品製造業」については、就業経験のある保護者が16.8%であるのに対し、経験のない保護者が14.2%と、就業経験のある保護者が2.6ポイント高くなっている。
- ・「金属・機械器具製造業」「その他製造業」に関しては、就業経験の有無によってさほどの変化は見られなかった。

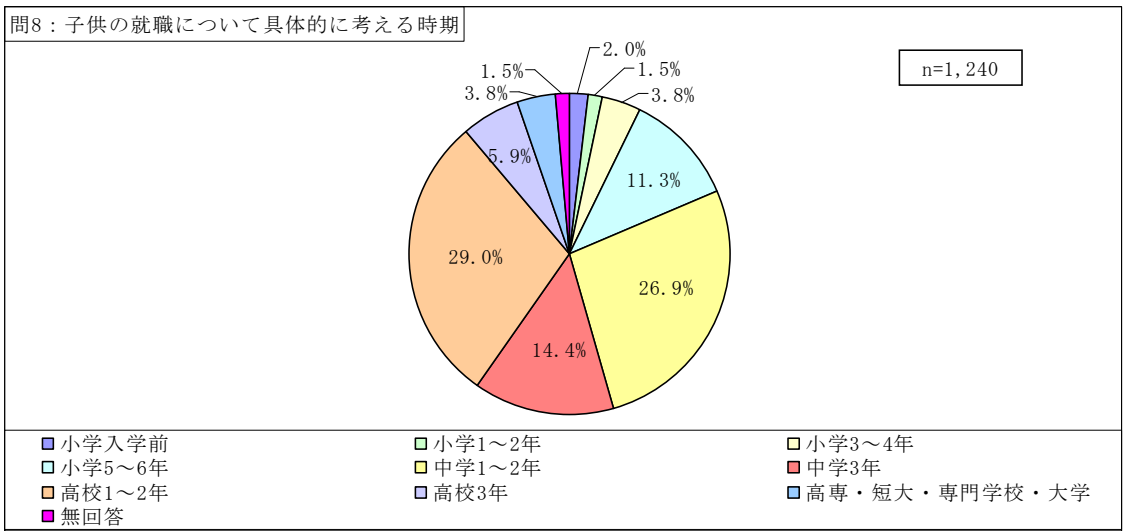
図-13



問8. 子供の就職について具体的に考える時期

- ・子供の就職について具体的に考える時期に関しては、中学校1年生から高校2年生の間とした保護者が全体の70.3%を占めた。
- ・一方、高校3年生とした保護者は5.9%で、進学・就職といった進路を決定しなければならない高校3年生以前に、進路を具体的に考えるべきとする保護者が多い結果となった。

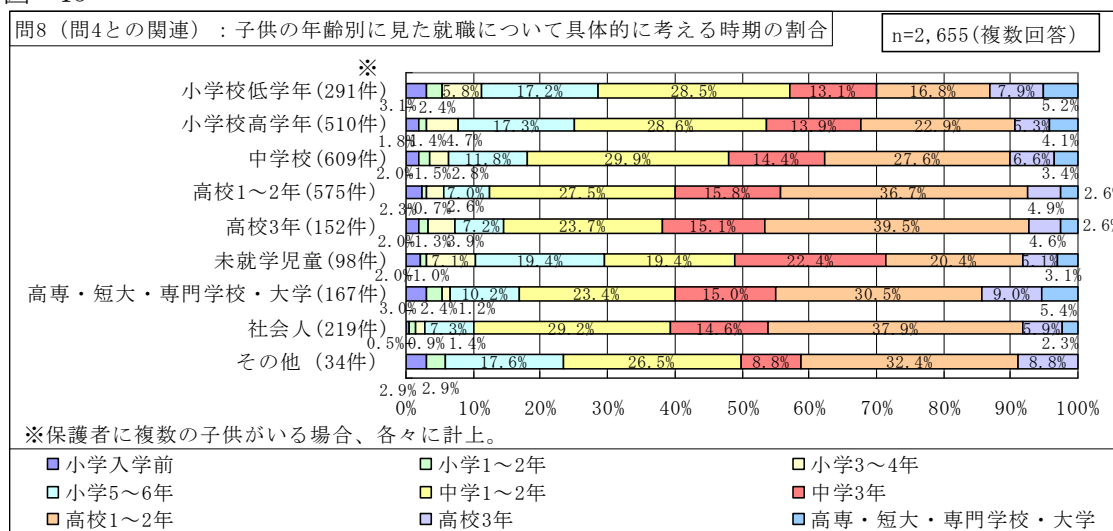
図-14



問 8 【問 4 「子供の年代別」との関連】

- ・子供の年代別との関連（図 - 15）では、子供の年齢が高くなるにつれて「小学生」とする保護者の割合が減少すると共に、「高校1～2年」とする保護者の割合が増加している。最も高い数値としては、高校3年の子供を持つ保護者の39.5%となっている。
- ・一方で、中学生の時期とする回答は、小学生から高校生までの子供を持つ保護者において、概ね40%を越えており、中学生の時期に就職について考えることが重要であるということが伺える。

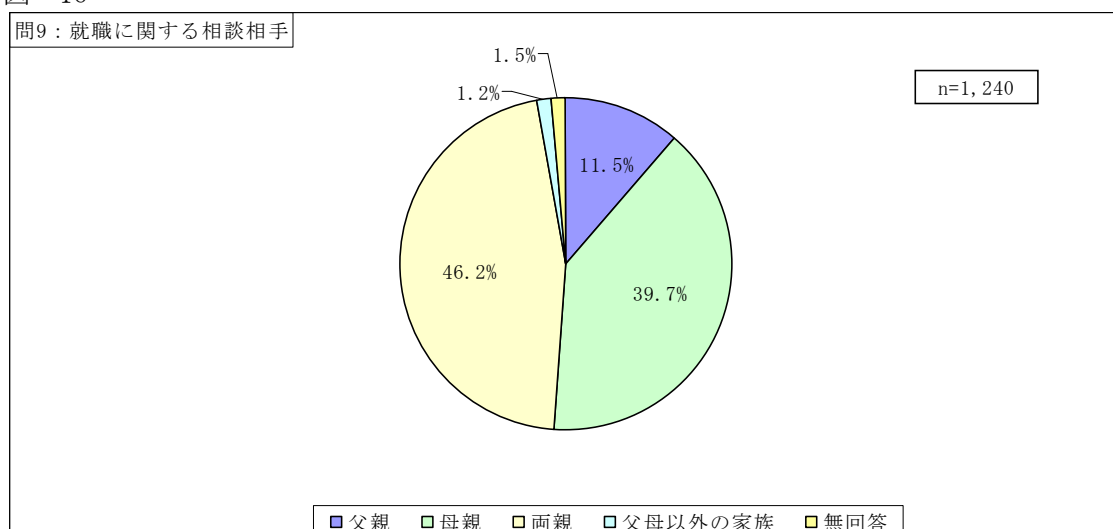
図 - 15



問 9. 就職に関する相談相手

- ・就職に関する相談相手については、「両親」が46.2%で最も多く、次いで「母親」が39.7%、「父親」が11.5%となっており、子供の就職については、母親が関与する割合が多くなっている。

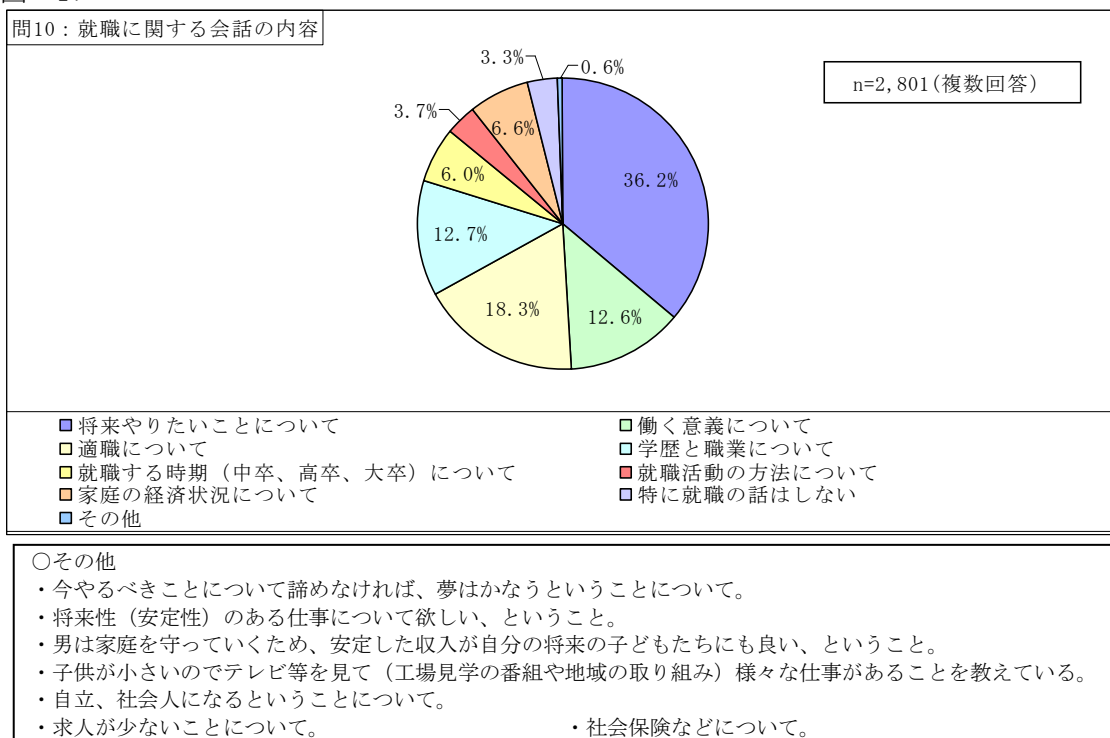
図 - 16



問 10. 就職に関する会話の内容

- ・就職に関する会話の内容としては「将来やりたいことについて」が 36.2%、「適職について」が 18.3%となり、半数を超える保護者が仕事の内容に関する話をしている。
- ・一方、「就職する時期（中卒、高卒、大卒）について」（6.0%）、「就職活動の方法について」（3.7%）、「家庭の経済状況について」（6.6%）などの現実的な話題については、さほど多くはなかった。

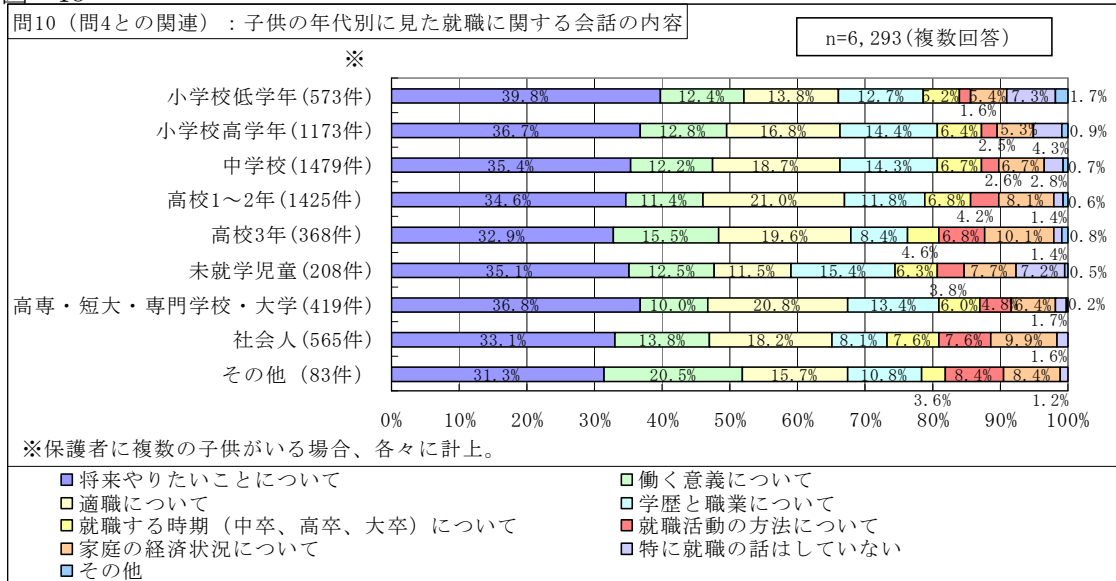
図 - 17



問 10【問 4「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連（図 - 18）では、「将来やりたいことについて」は、小学校低学年の子供を持つ保護者では 39.8%であったのが、子供の年代が上がると共に低くなっている。一方で、「就職活動の方法について」や「家庭の経済状況について」などの会話は子供の年代が上がると共に多くなっており、就職する年代に近づくにつれ、より具体的、現実的な会話をするようになっていくことが伺える。

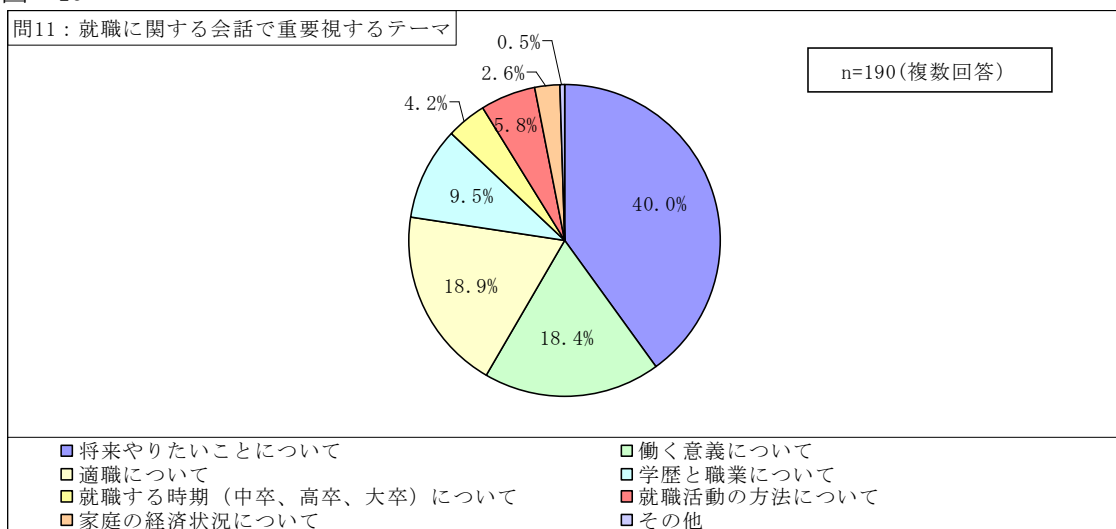
図 - 18



問 11. 就職に関する会話で最も重要視するテーマ

- ・問 10 で「特に就職の話をしていない」と回答した保護者を対象に、就職に関する会話で重要視するテーマを聞いたもので、一番目が「将来やりたいことについて」で 40.0%、次いで「適職について」が 18.9%、「働く意義について」が 18.4%の順となっている。

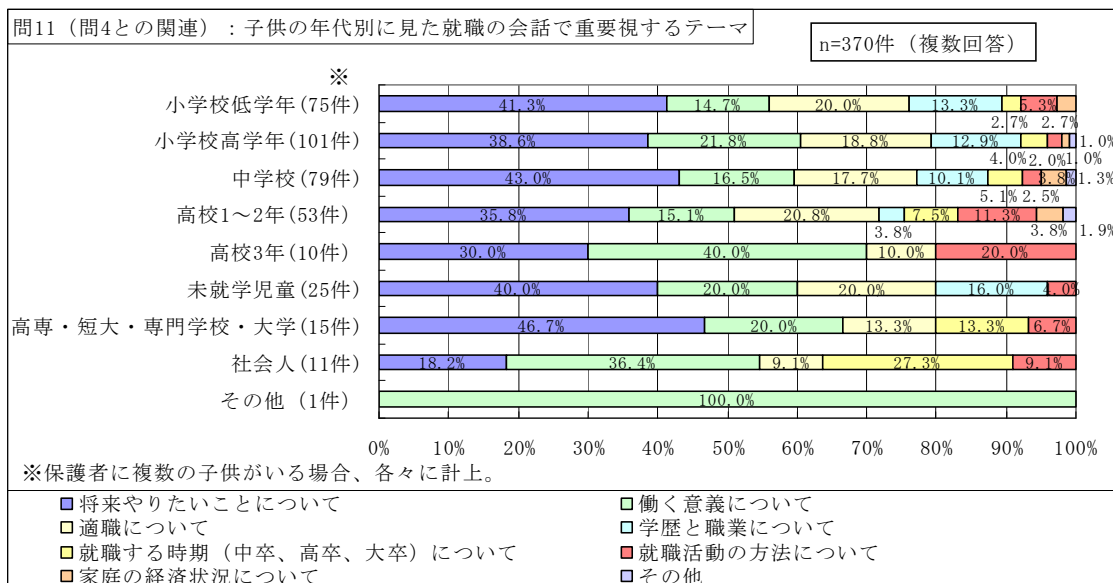
図 - 19



問 11 【問 4 「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連 (図 - 20) で見てみると、各年代共に「将来やりたいことについて」や「働く意義について」を重要視するテーマと考えている保護者が多い。
- ・子供の年代別の回答件数を見ると、小学生及び中学生の子供を持つ保護者 (計 255 名) が全体の 69%を占め、今後就職に関する会話をしていくことになると思われるこの世代についても、「将来やりたいことについて」や「働く意義について」、「適職について」が上位を占めており、問 10 の結果と同様の傾向が見られる。
- ・一方で、高校 1~2 年や高校 3 年の保護者では、「就職活動の方法について」を重要視している割合が他の年代と比較して高くなっており、就職する年代が近づくにつれ、就職活動に関する具体的な手法についても重要であると考えていることが伺え、このことも問 10 の結果と同様の傾向が見られる。

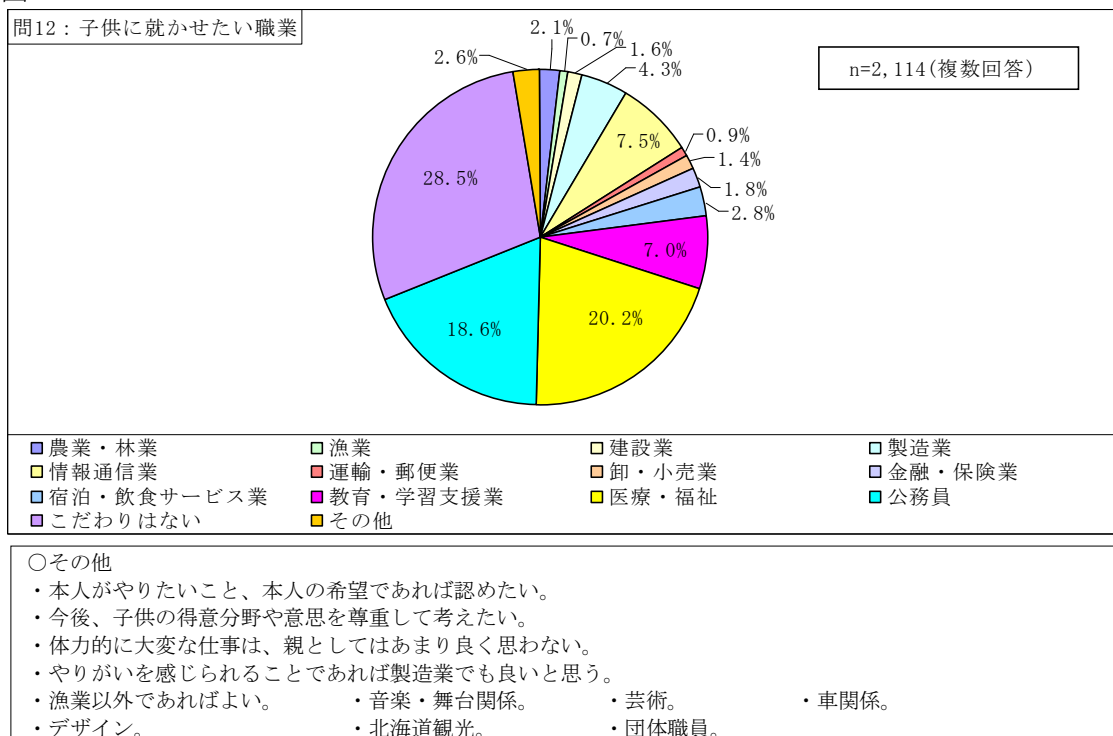
図 - 20



問 12. 子供に就かせたい職業

- ・子供に就かせたい職業として「こだわりはない」が最も多く 28.5%、次いで「医療・福祉」が 20.2%、「公務員」が 18.6%と続いている。
- ・「製造業」については、4.3%の保護者が子供に就かせたい職業として回答している一方、問 7 の将来性、発展性を感じられる産業としては 18.9%の保護者が回答している（図 - 10）ことから、将来性を感じつつも、現実的な就職先として魅力を感じていない保護者の多いことが伺える。

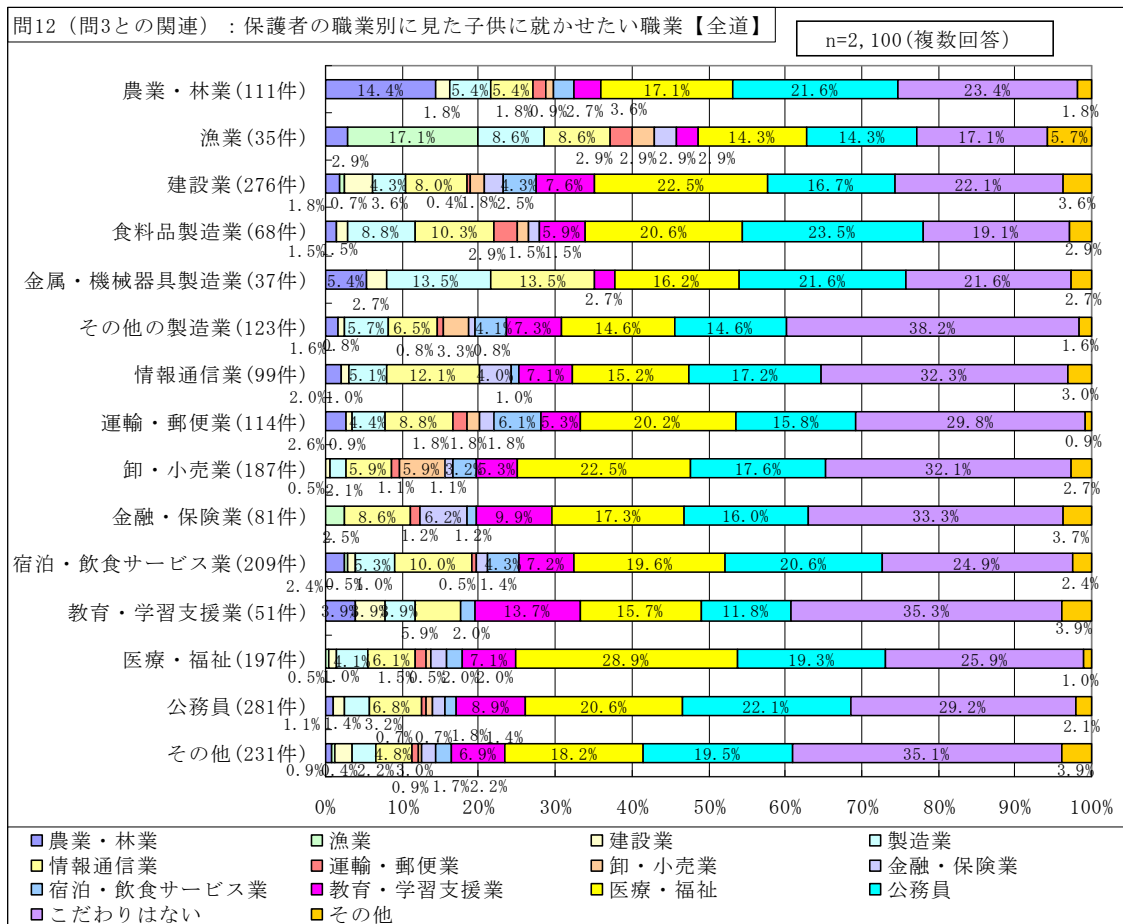
図 - 21



問12【問3「保護者の職業」との関連】

- ・問3の保護者の職業との関連（図-22）で見ると、職業に関係なく「こだわりはない」や「医療・福祉」、「公務員」の割合が高くなっている。
- ・また、保護者の職業別に見た場合、「漁業」や「医療・福祉」については、子供を自身の職業に就かせたいと考えている割合が最も高くなっている。
- ・保護者の職業によっては、自身の仕事に就かせたいという意見が多いものの、総体的には「こだわりはない」（子供の意思を尊重する）保護者が多いことが伺える。

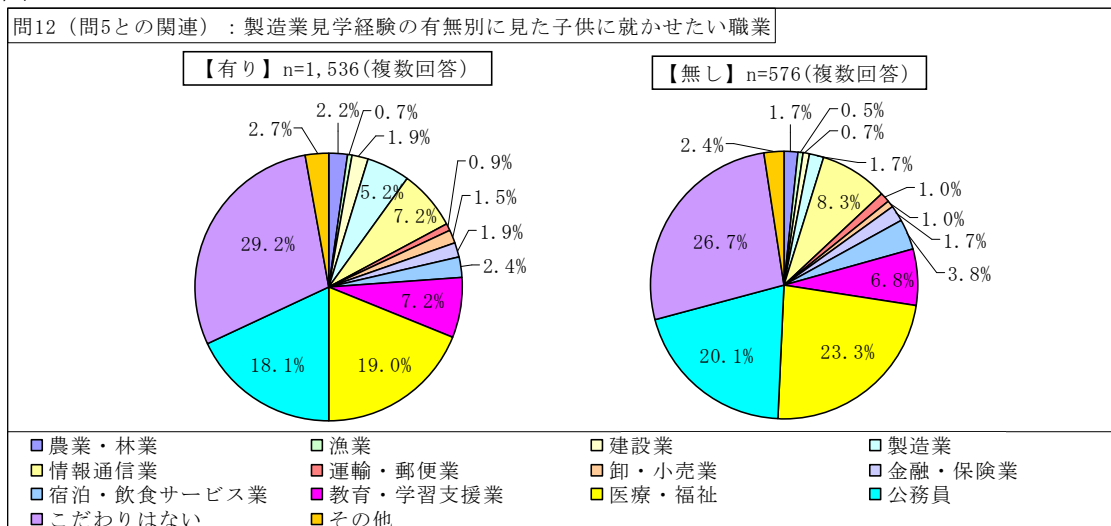
図-22



問 12 【問 5 「製造業見学経験の有無」との関連】

・問 5 の製造業見学経験の有無との関連（図 - 23）では、経験がある場合に製造業を選択している割合は5.2%となっている一方、経験がない場合は1.7%となっており、経験があることにより、子供に就かせても良いと考える保護者の多いことが伺える。

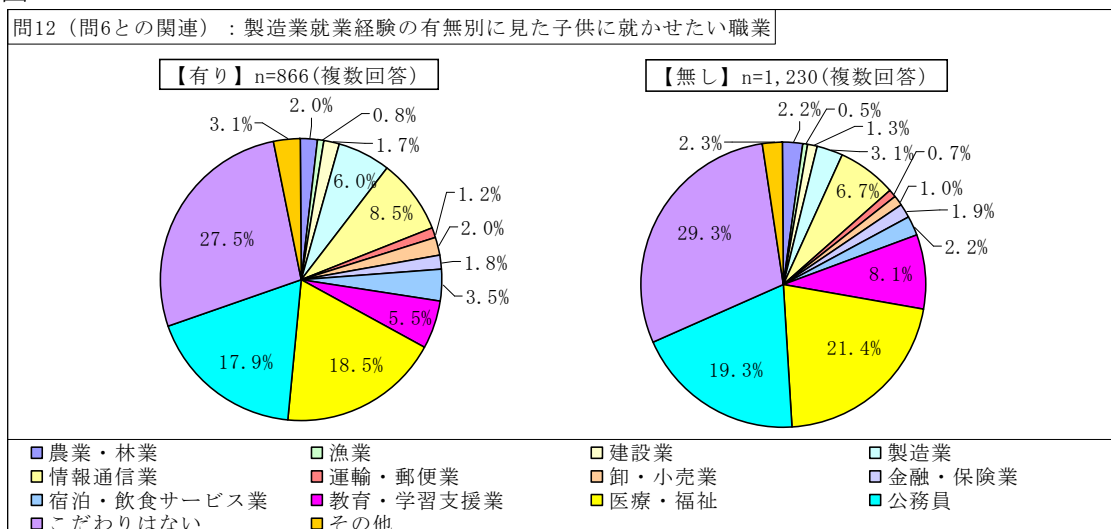
図 - 23



問 12 【問 6 「製造業就業経験の有無」との関連】

・問 5 の製造業就業経験の有無との関連（図 - 24）では、経験がある場合に製造業を選択している割合は6.0%となっている一方、経験がない場合は3.1%となっており、経験があることにより、子供に就かせても良いと考える保護者の多いことが伺える。

図 - 24



【圏域別】

- ・すべての圏域で「医療・福祉」「公務員」が上位に入っている。
- ・道央圏では「こだわりはない」が最も高く 32.5%となり、他の圏域と比べても高く、子供の意思を尊重する保護者が多いことが伺える。次いで「医療・福祉」が18.1%、「公務員」が16.8%の順となっている。
- ・道南圏では「こだわりはない」が最も高く25.1%、次いで「医療・福祉」23.1%、「公務員」21.1%と続き、四番目に「情報通信業」が9.6%になっている他は、大きな差が見られない。
- ・道北圏では、「医療・福祉」が最も高く23.8%、次いで「公務員」が23.5%、「こだわりはない」が21.2%となっており、その他の業種については、割合に若干の変動があるものの、道央圏と同様の傾向である。
- ・オホーツク・釧根圏では、「こだわりはない」と「医療・福祉」が最も高く23.6%、次いで「公務員」が17.6%となっており、その他の業種については、割合に若干の変動があるものの、道央圏と同様の傾向である。
- ・十勝圏では「こだわりはない」が最も高く24.4%、次いで「公務員」20.3%「医療・福祉」18.7%と続き、四番目には「製造業」と「宿泊・飲食サービス業」が8.1%となっている。

図 - 25

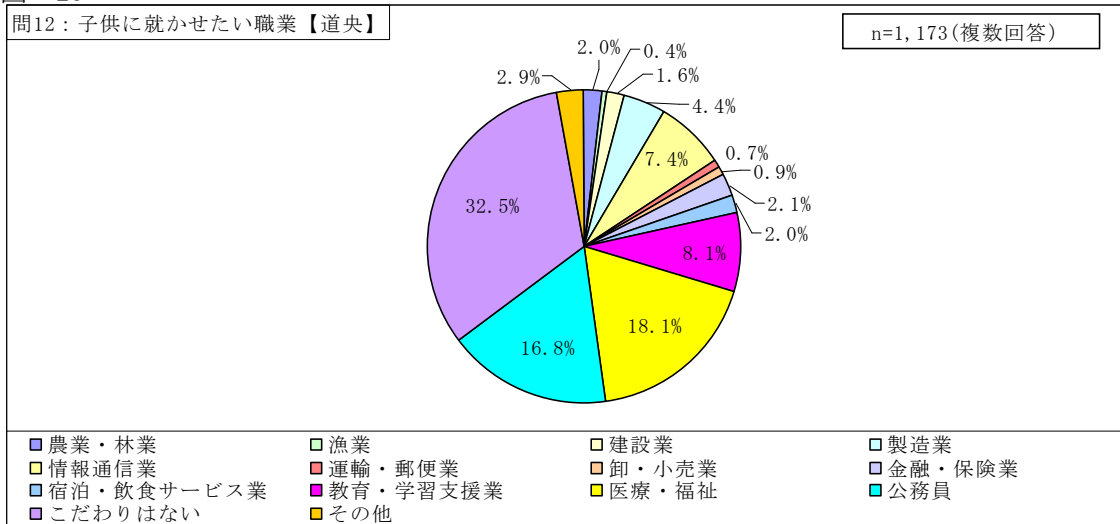


図 - 26

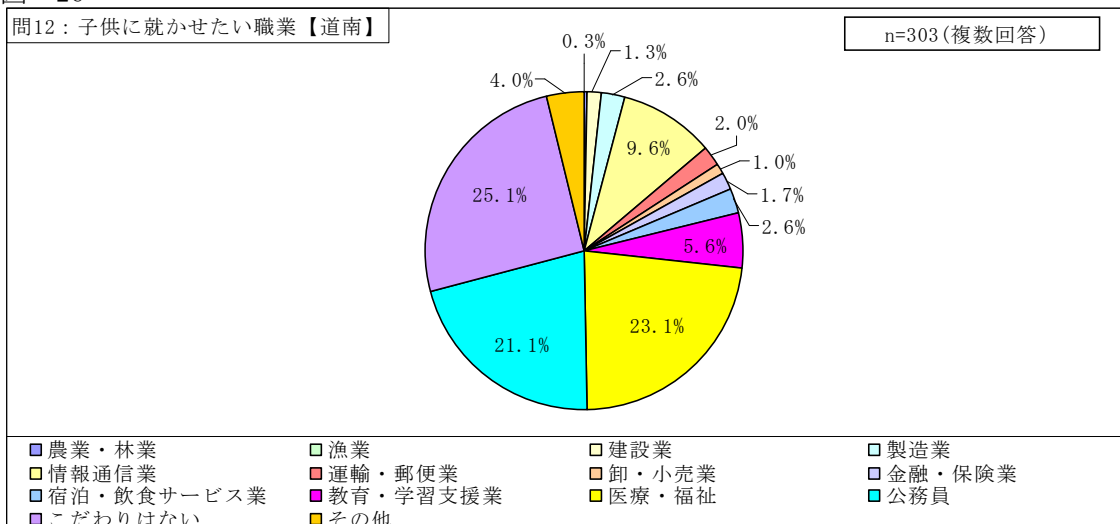


図 - 27

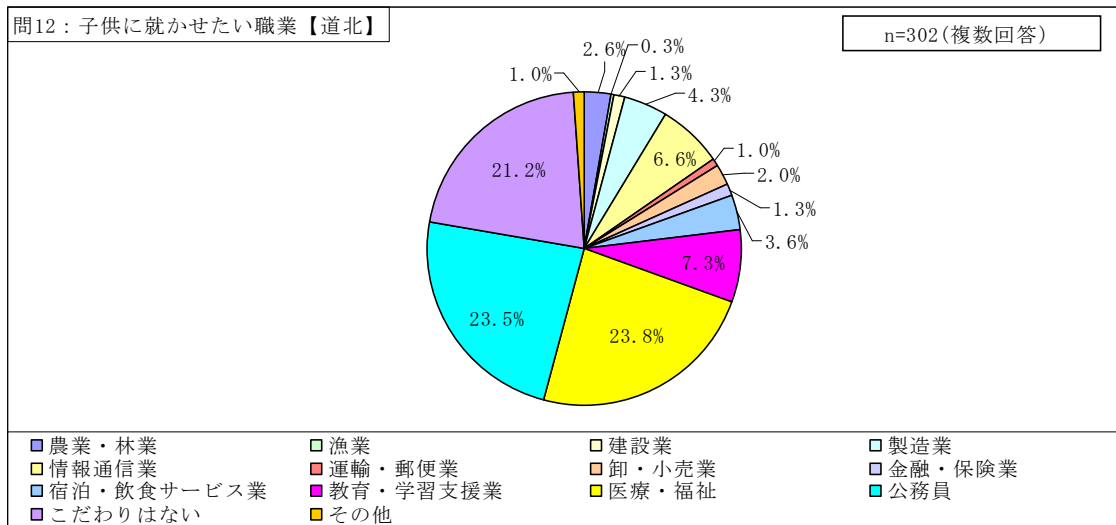


図 - 28

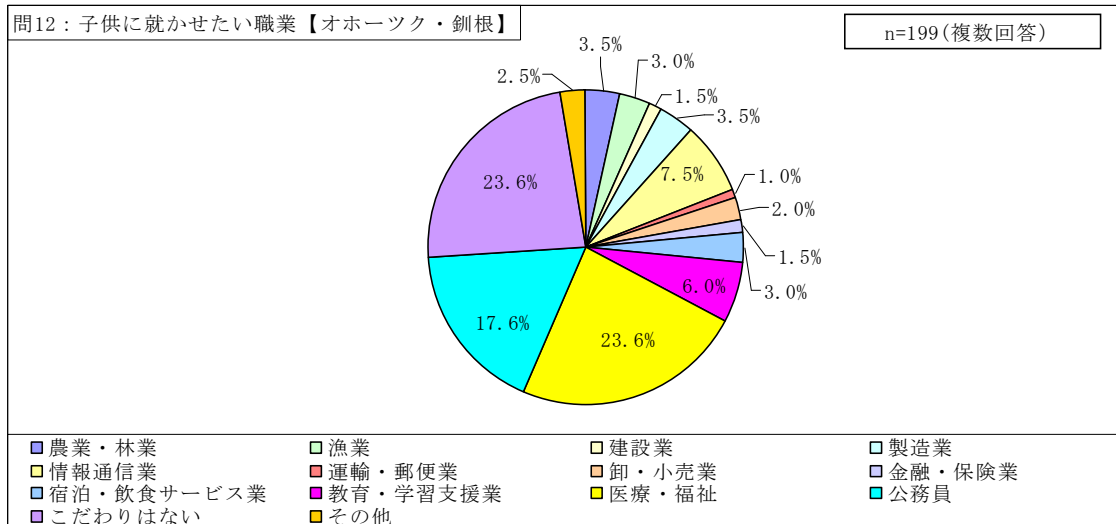
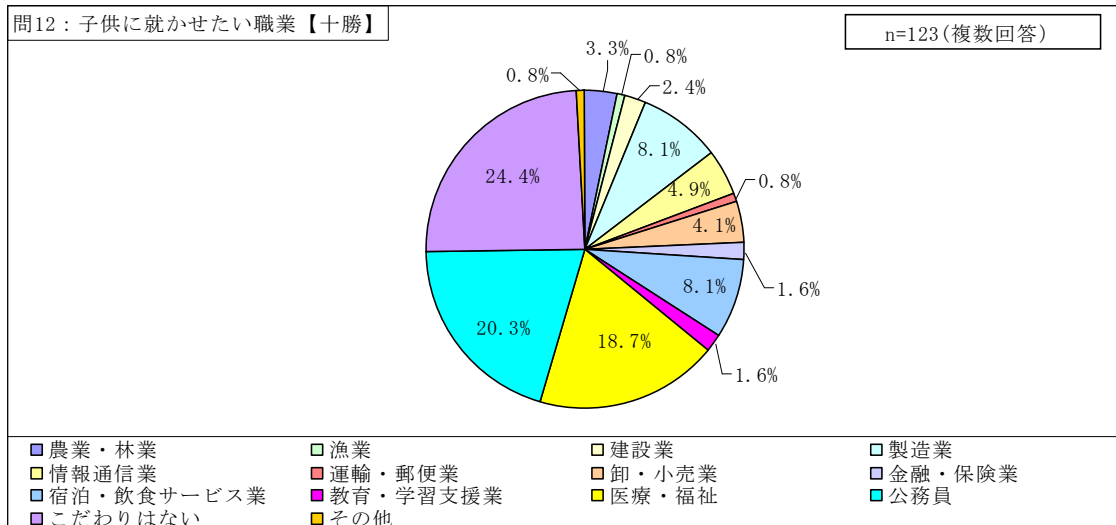


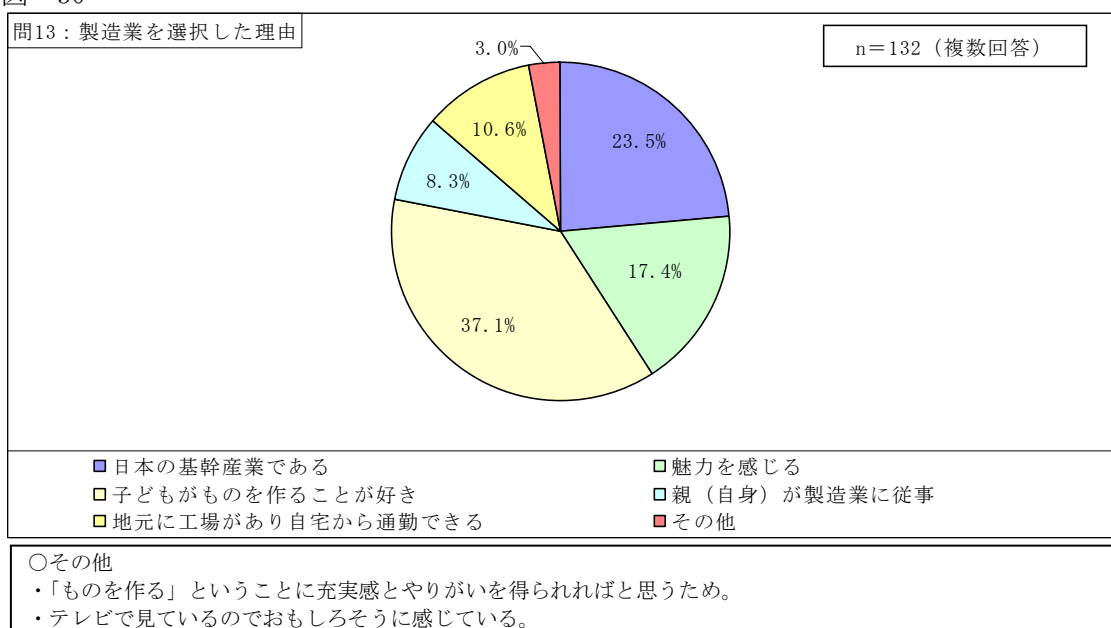
図 - 29



問 13. 子供に就かせたい職業で製造業を選択した理由

- ・問 12 の子供に就かせたい職業で「製造業」と回答した保護者を対象に、製造業を選択した理由を聞いたもので、一番目が「子供がものを作ることが好き」の 37.1%であった。次いで「日本の基幹産業である」が 23.5%となっており、「魅力を感じる」という保護者も 17.4%という結果になっている。

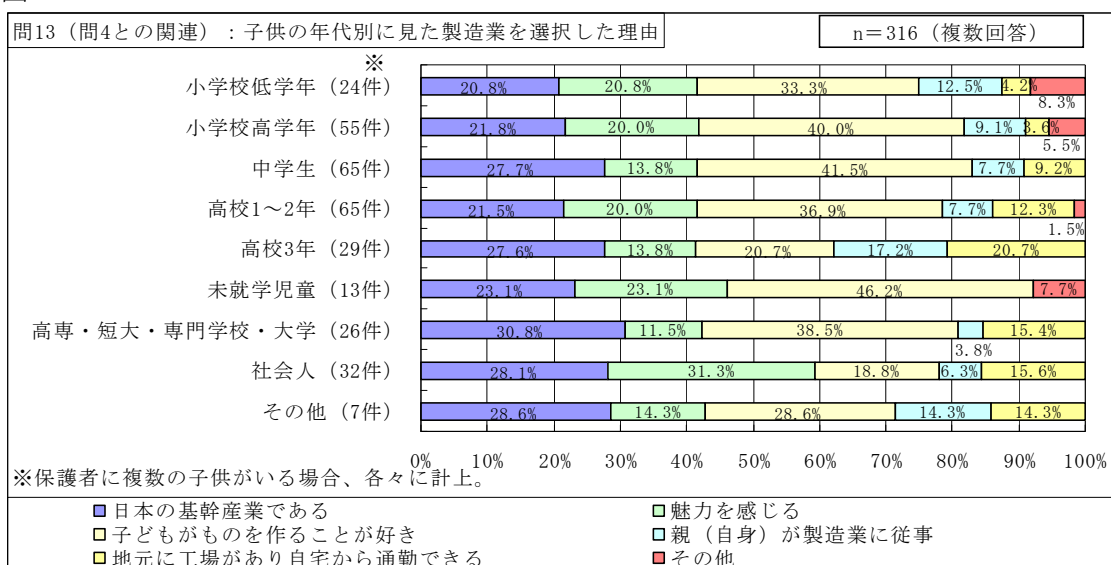
図 - 30



問 13【問 4「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連（図 - 31）でも、「子供がものを作ることが好き」という理由を選択している保護者が各年代で概ね 3~4 割ほどおり、子供の意向を尊重する傾向が伺える。
- ・特に、未就学児童のいる保護者で最も高い 46.2%となった。
- ・一方で、子供の年代が上がるにつれて、「地元で工場があり自宅から通勤できる」を選択している保護者が増えており、就職する年代に近づくにつれ、地元に残ってほしいとする保護者の意向が伺える。

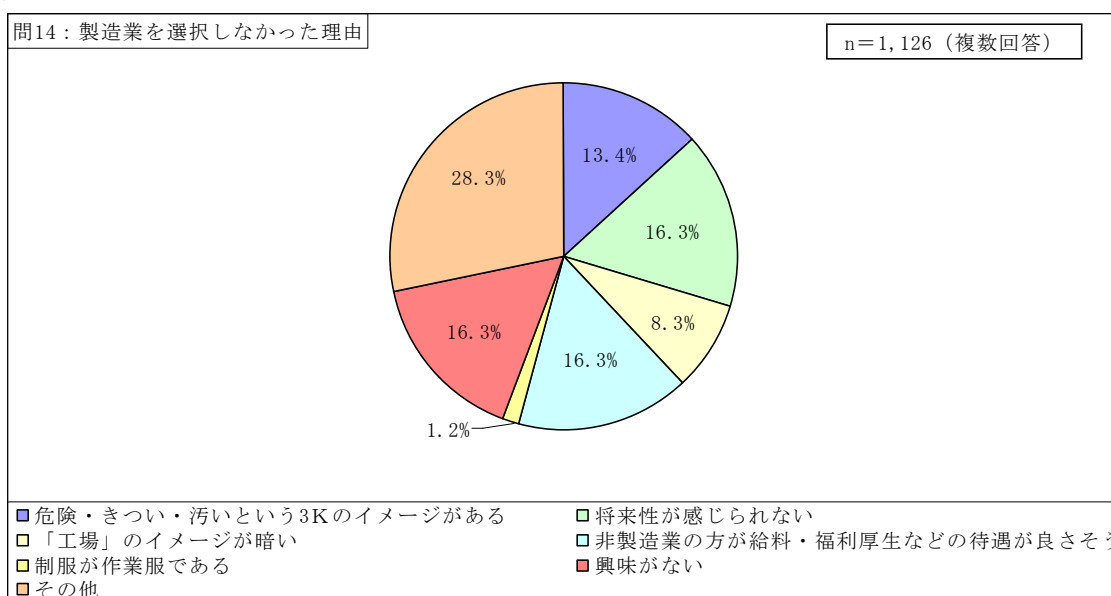
図 - 31



問 14. 子供に就かせたい職業で製造業を選択しなかった理由

- ・製造業を選択しなかった理由として、「制服が作業服である」(1.2%)、「工場のイメージが暗い」(8.3%)を除いて概ね均等な回答になっているが、「その他」を選択した保護者が28.3%と最も多い結果となった。
- ・「その他」の回答内容を見ると、マイナスイメージの記載も見られるが、「本人がやりたければ応援する」といった本人の意思を尊重する意見が、「その他」として記載された回答全体の約4割を占めていた。また、「こだわりがない」や「まだ考えられない」という記載も、それぞれ1割程度見られた。

図 - 32

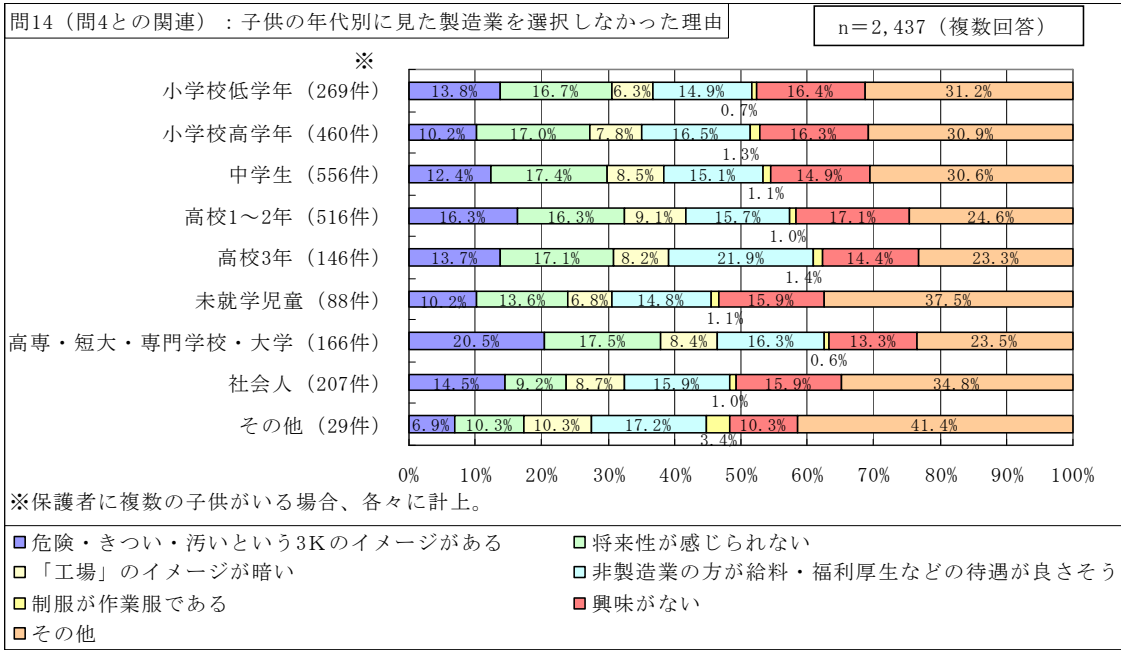


- その他
- ・女性だと、どうしても上下関係が出来てしまって、人間関係のトラブルが多い。
 - ・仕事として物を作ることも大切だが、それ以上に大切なものがあるから。
 - ・父親が製造業で大変苦勞をした。勤務体制が厳しい会社が多い。
 - ・具体的に話をしていないが、本人が希望すれば反対はしない。
 - ・今の段階では、まだどの業種にしても考えられない。
 - ・子供が将来なりたいものが製造業ではない。
 - ・仕事に対して達成感が与えられない気がする。
 - ・正社員になれないのではという不安がある。
 - ・製造業といわれて思い出す仕事は浮かばない。
 - ・賃金の安い国に移転するイメージがある。
 - ・親が決めることではないと思っている。
 - ・子供が選べば、どのような職種でも良い。
 - ・他に子供に適した仕事があると思うため。
 - ・収入の安定性が不安だ。
 - ・特にこだわりはない。
 - ・自分が働いていて大変だったため。
 - ・安定性を考えると不安がある。
 - ・本人がやりたければ応援する。
 - ・人を相手にする仕事を考えている。
 - ・本人が今のところ興味がないため。
 - ・特に製造業を意識していないため。
 - ・自分の子供には向いていない。
 - ・特に考えた事がない。
 - ・収入が低い。

問 14 【問 4 「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連(図 - 33)では、「非製造業の方が給料・福利厚生などの待遇が良さそう」という意見が、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、高校 3 年の保護者では「その他」の回答を除いて最も多く選択されている。

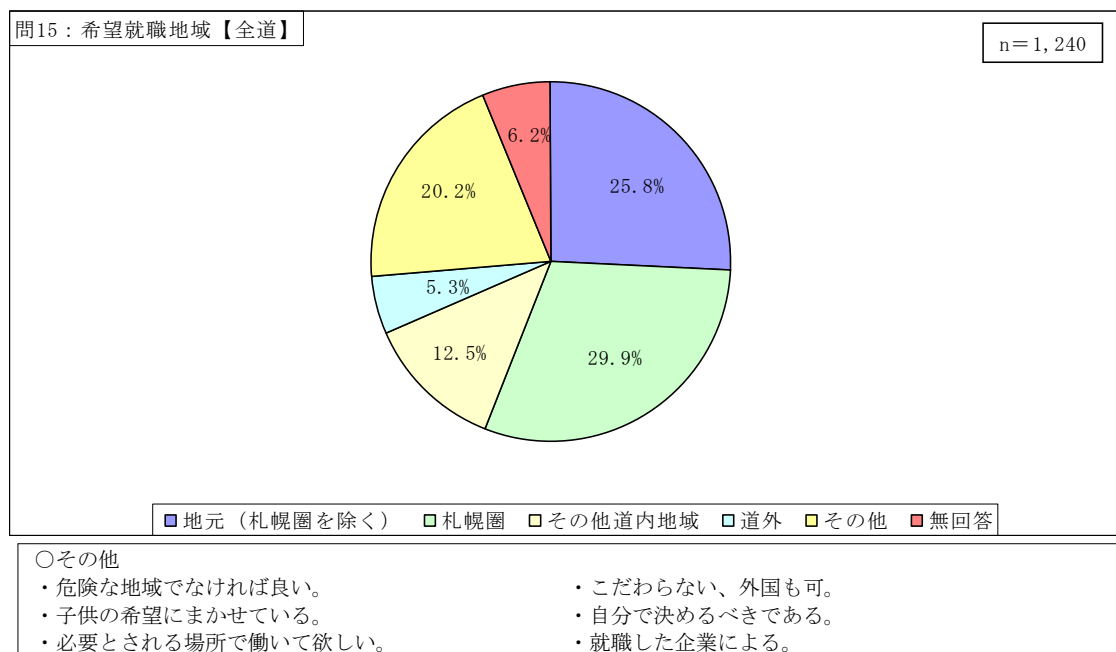
図 - 33



問 15. 子供の希望就職地域

- ・希望就職地域として、「札幌圏」が 29.9%、「地元 (札幌圏を除く)」が 25.8%、「その他」が 20.2%となっている。
- ・「その他」の内容としては、「こだわらない」「どこでもよい」という回答が多く、「その他」の中では約 6 割を占めている。「子供の希望にまかせている」という意見も見られることから、子供の意思を尊重する意見が目立つ結果となっている。

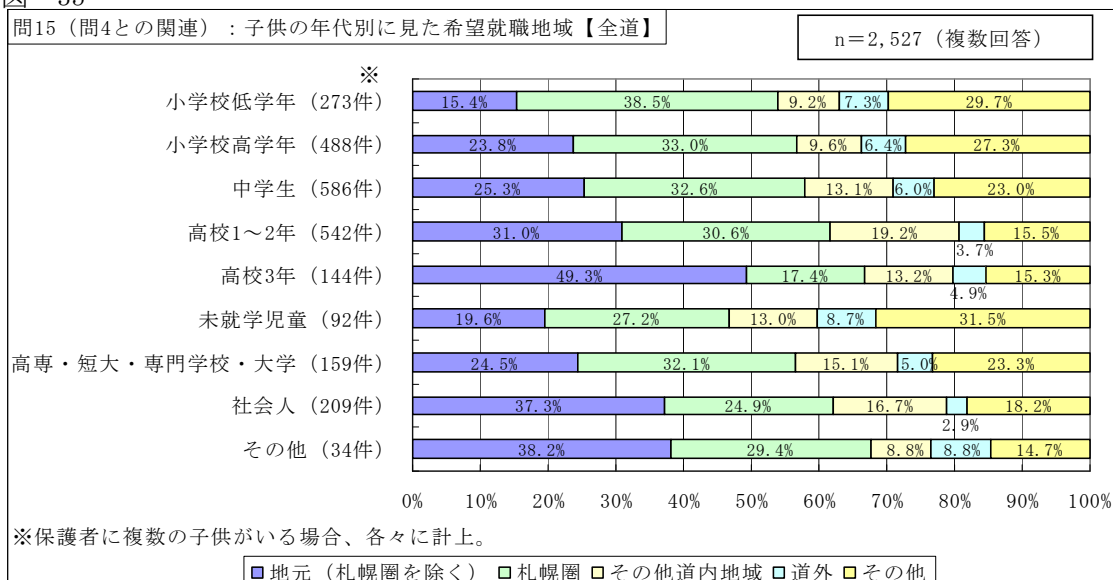
図 - 34



問15【問4「子供の年代別」との関連】

- ・問4の子供の年代別との関連（図 - 35）では、小学校低学年で38.5%であった「札幌圏」という回答は、年代が上がるにつれて割合が低くなり高校3年では17.4%となっている。
- ・一方「地元（札幌圏を除く）」は小学校低学年で15.4%であったのが、高校3年で49.3%となり、自身の子供を地元で就職させたい意向の強いことが伺える。

図 - 35



【圏域別】

- ・圏域別の就職希望地域を見てみると、道央圏ではそれぞれの選択肢で若干の変動があるものの、全道における構成比とほぼ同様の傾向となっている。
- ・道南圏では、49.7%が「地元」、17.3%が「その他」を選択している一方、札幌圏は8.1%と低い割合になっている。また、「道外」が8.7%と他の圏域と比べて最も高くなっている。
- ・道北圏では、34.6%が「地元」、25.3%が「その他道内地域」、16.0%が「札幌圏」となり、約4分の3が道内を希望している。
- ・オホーツク・釧根圏では、37.2%が「地元」、31.9%が「その他道内地域」、9.7%が「札幌圏」となり、約8割が道内を希望している。
- ・十勝圏では、65.3%が「地元」となっており、地元就職を希望する保護者が最も多い結果となった。

図 - 36

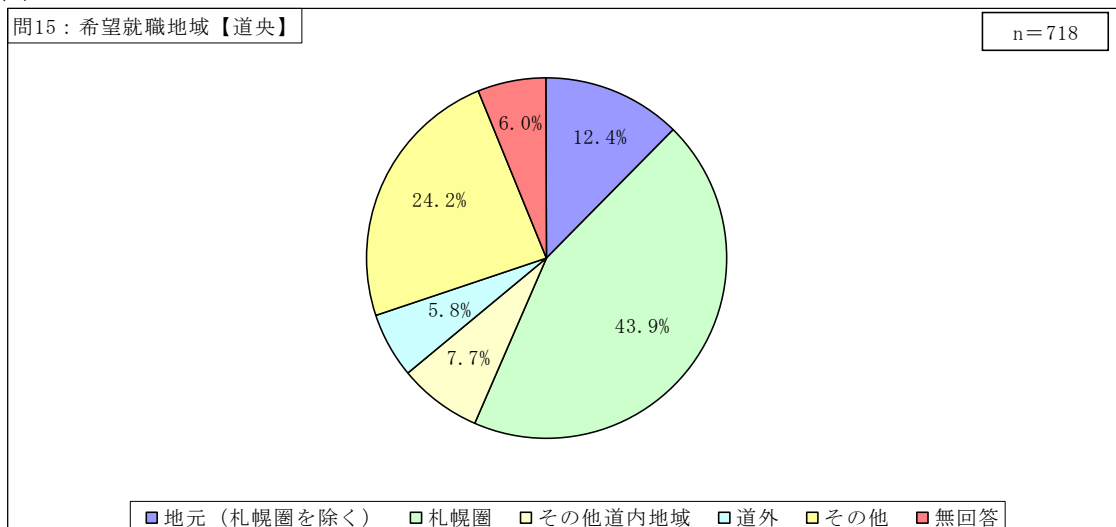


図 - 37

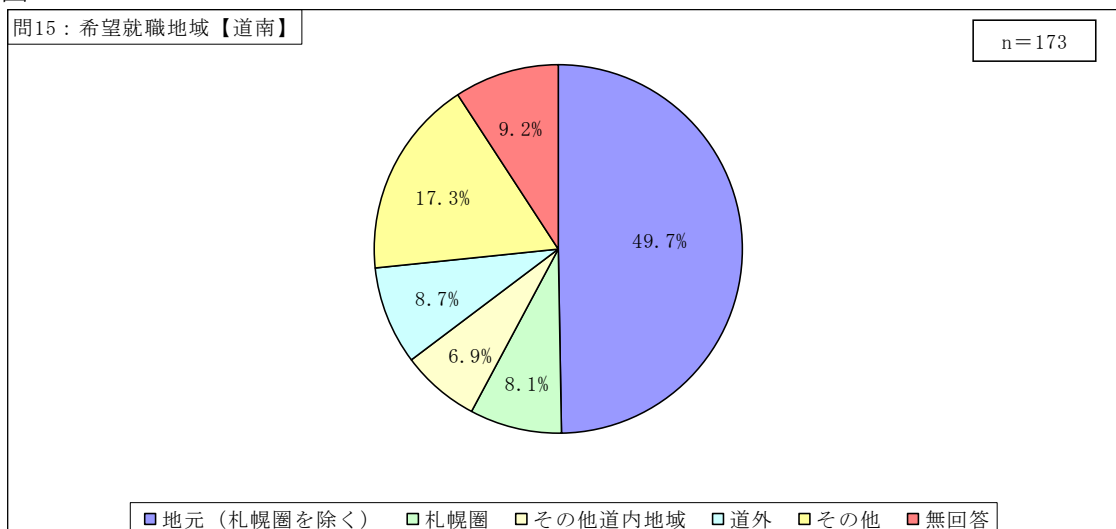


図 - 38

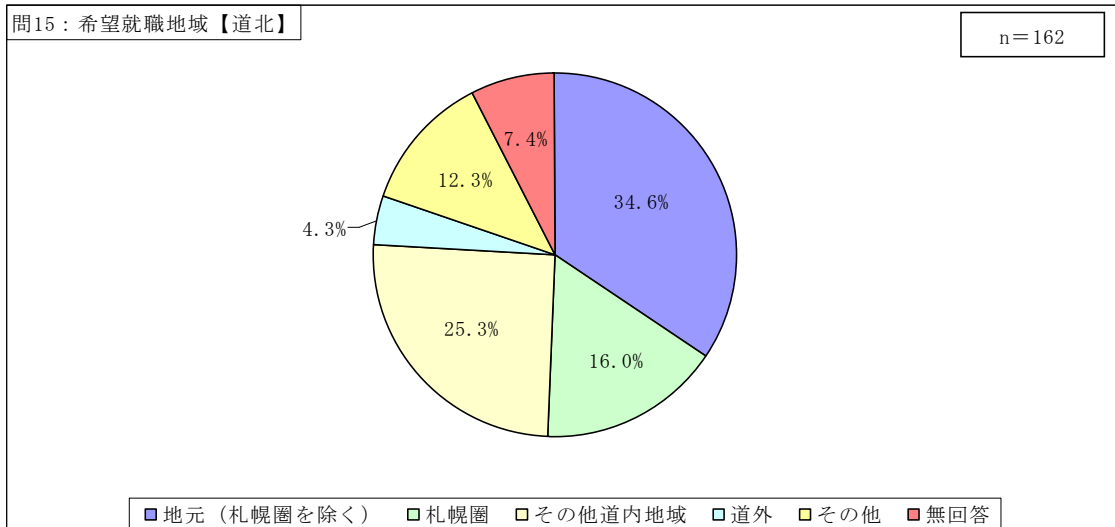


図 - 39

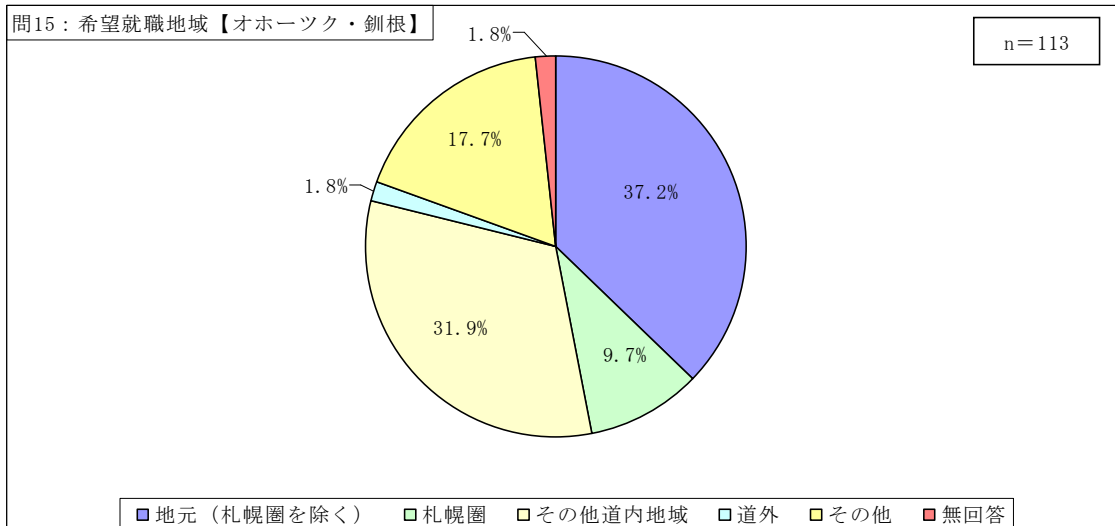
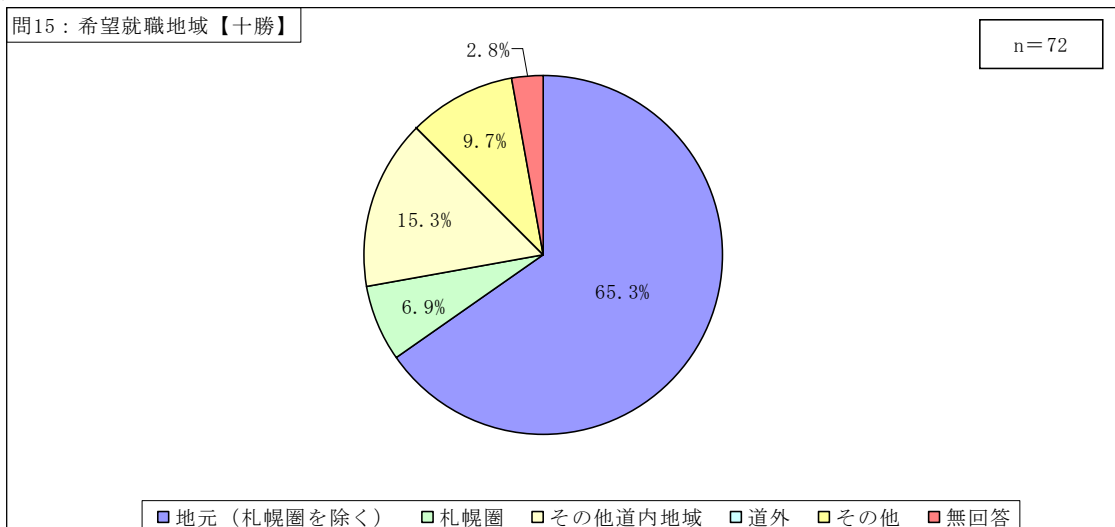


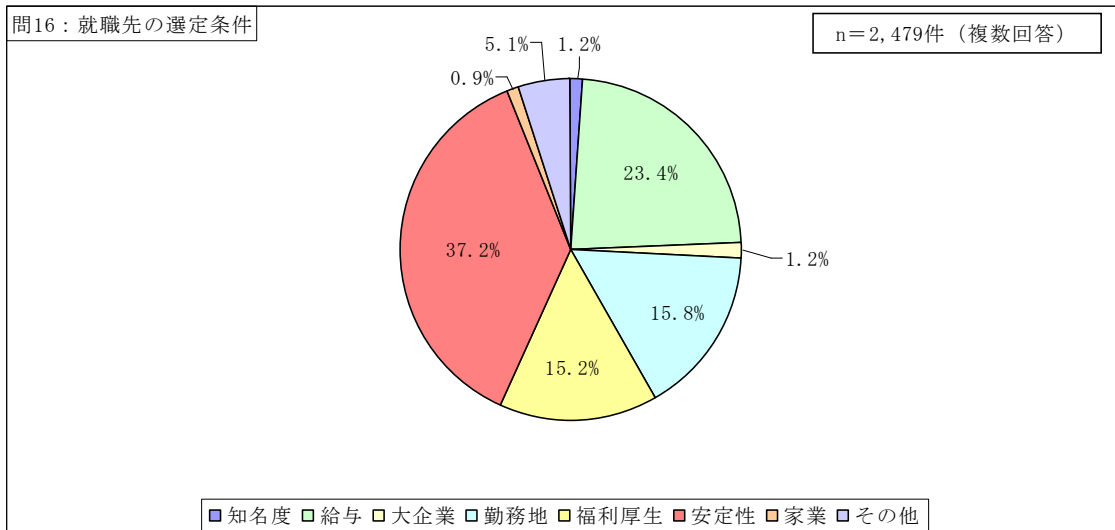
図 - 40



問 16. 就職先の選定条件

- ・就職先の選定条件として、「安定性」が 37.2%と最も高く、次いで「給与」が 23.4%、「勤務地」が 15.8%と続く結果となった。

図 - 41



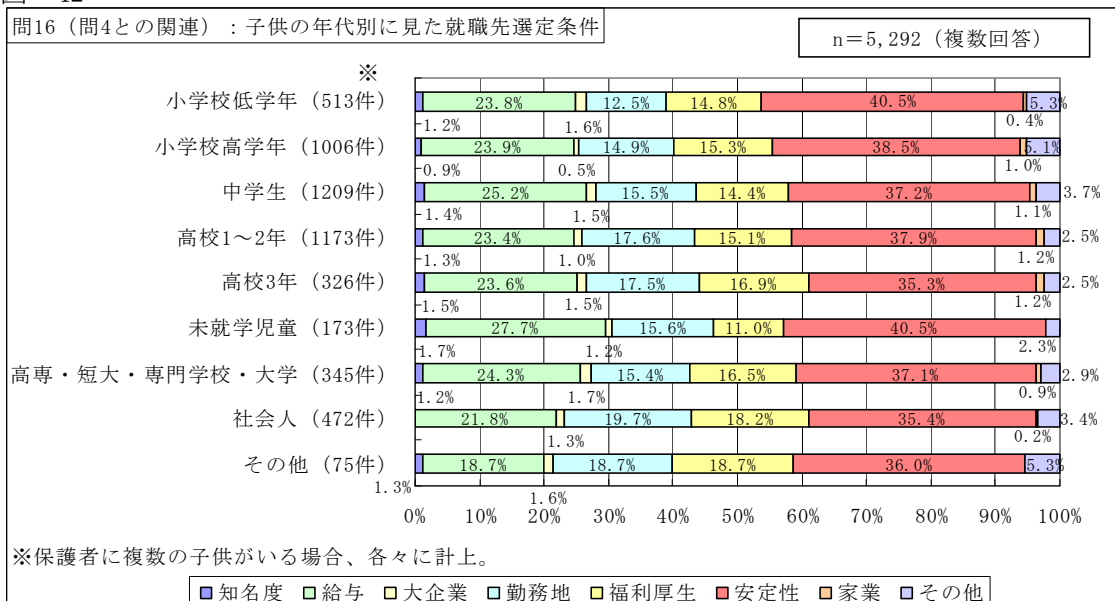
○その他

- ・本人が希望している職種を一番に考えているので、条件はない。
- ・ある程度の暮らしが出来れば良い。職業を大切に思えば良い。
- ・まずは本人にやる気があるかどうか。具体的には考えていない。
- ・人間としての扱いがきちんとしているところ。
- ・自分としてのやりがい。自立できる給与。
- ・子供が芸術系なのでうまく回答できない。
- ・本人が一生続けたいと思える職業。
- ・世の中のためになること。
- ・適職かどうか（適正）。
- ・将来性。
- ・本人が楽しいと思いつながりながら働けること。
- ・機会を与えられたものであれば良い。
- ・会社の経営姿勢、企業理念。
- ・好きなことを選ばせたい。
- ・充実感。
- ・人間関係。

問 16【問 4「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連（図 - 42）では、各年代ともそれぞれの選択肢で若干の割合の変動があるものの、ほぼ同様の構成比となっており、生活基盤の安定を求める傾向が伺える。

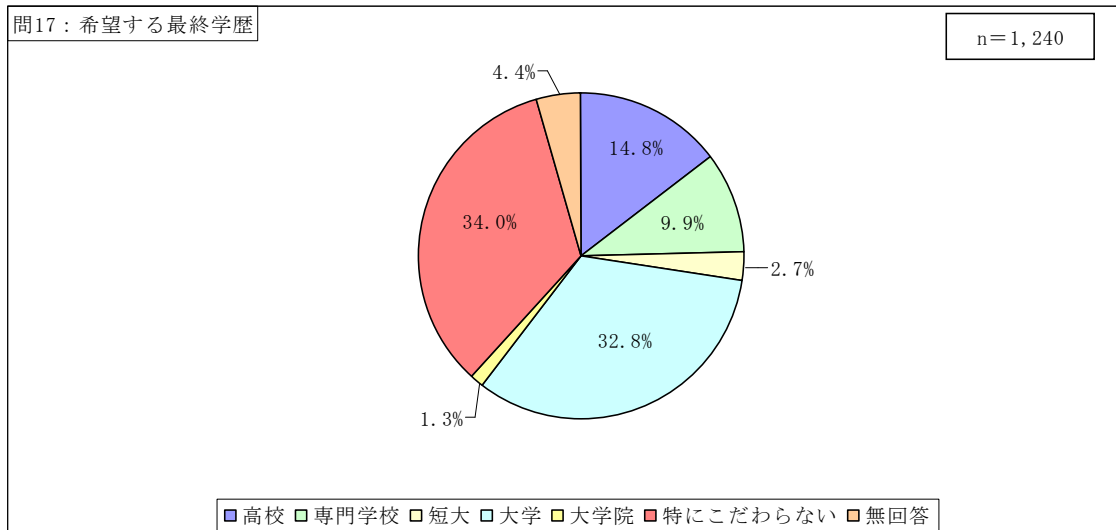
図 - 42



問 17. 子供に希望する最終学歴

- ・希望する最終学歴として、「特にこだわらない」が 34.0%と最も高く、次いで「大学」32.8%、「高校」が 14.8%と続く結果となった。

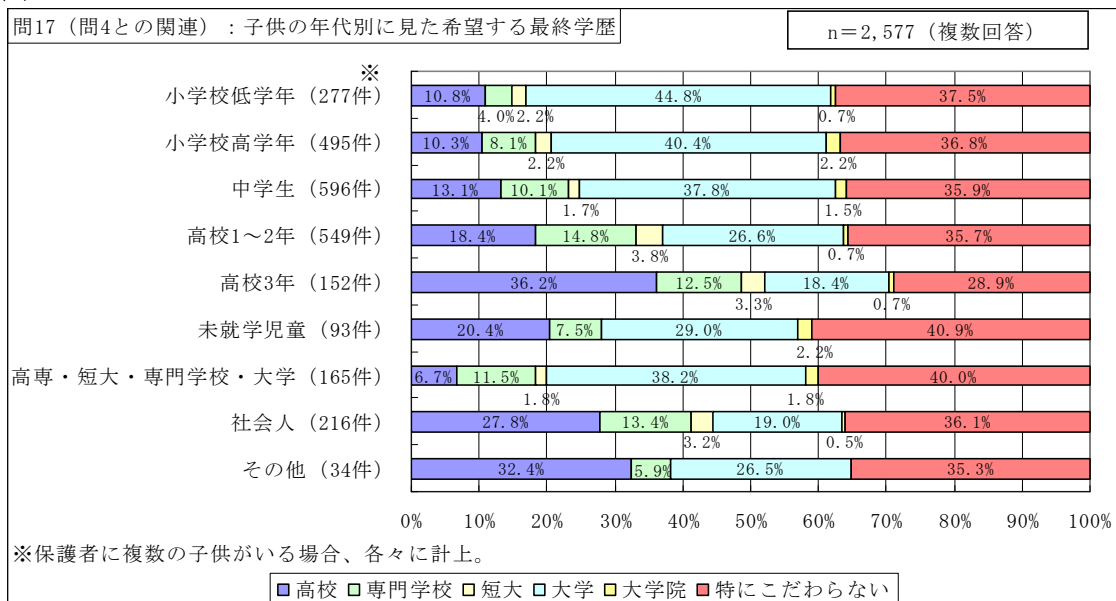
図 - 43



問 17 【問 4 「子供の年代別」との関連】

- ・問 4 の子供の年代別との関連（図 - 44）では、各年代ともに「特にこだわらない」の割合が高い傾向にあり、ここでも子供の意思を尊重する保護者が多いことが伺える。
- ・小学校低学年の子供を持つ保護者の半数近くが「大学」と回答しているが、年代が上がるにつれて割合が低くなっており、高校 3 年では 18.4%となっている。
- ・一方で、小学校低学年で 10.8%だった「高校」が高校 3 年では 36.2%と、その割合が逆転しており、高校卒業後の進路として、就職を希望する保護者が多い結果となった。

図 - 44



問 18. 子供の就職に対する意識を向上させるのに、有効と考える方法

【自由記述】

■自由記述における主な意見について、以下のように体系的に整理

(1) 学校への提案・意見

- ・学校で「働く」ということに対する教育を小学校のうちから行うと良い。

【小学校からのキャリア教育】

- ・授業の中でも就職に関する授業があれば、もっと意識が向上するのではないか。

【就職に関する授業】

- ・インターンシップの実施。実際に体験してみることで、仕事の内容を知ったら自分のイメージとの違いがわかる。

【インターンシップ体験】

(2) 家庭内での意見

- ・家庭で今、起きている事などを参考に対話を持ち、コミュニケーションを図り体験談などを話す。

【家庭内での会話の重要性】

- ・大人がそれぞれの仕事にプライドを持って勤めていることを、子供に見せてあげる。まずは親の姿を知ってもらうことが重要である。

【働いている保護者の姿を見せること】

- ・小さい時からお金やものの大切さを教える。

【お金の大切さを伝えること】

(3) 学校・家庭共通の提案・意見

- ・幼少の頃から世の中にどんな仕事があってどのように役に立っているのか、聞いて知ったりできる機会を多く設けることが有効である。

【情報提供】

- ・OB・OGの話聞く機会を設けるなど、いかに沢山の魅力ある職種と出会えるかが重要である。

【情報提供】

- ・企業の情報が得られるイベントや体験等から、自分に合う仕事が見つかるきっかけが大切である。

【機会の提供】

- ・生きていく上で仕事をするのが、いかに大切かを教える。

【働く意義などの大切さに対する教育】

■自由記述の全体については、以下のとおり

- ・子供たちが就職を考える年になる頃の状況などを、親が把握すること。手段としては、セミナー、TVの情報、インターネット等。
- ・向上というより身近に感じられるように、旅行先や外出先で折に触れ話をする。そこから何年もかけて話を広げ、適齢期に具体的な話をする。
- ・企業が育てるつもりで雇うことをアピールすれば集まる。高学歴者の就職難は、希望する大手が人材を育てず経験者を選んでいるからだ。
- ・子供が大人の真似をしながら色々なことを体験できる場所、東京のキッズニアのように早くから触れることの出来る場所が必要。

- ・今の子供たちに入ってくる情報量が多すぎて、かえって就職・職業に関して夢が持ちにくい。小中学校で職業体験や、農業体験が出来るのは意識向上の良い機会である。
- ・努力させること、コツコツさせること、楽なほうに流されないように指導している。小さい頃からの大切である。勉強の楽しさを教える。
- ・小さい頃からの家庭での会話と、いかにたくさんの職種の魅力ある大人と出会えるかが重要である。
- ・インターンシップの実施。実際に体験してみることで、仕事の内容を知ったら自分のイメージとの違いがわかる。
- ・今は考えた事がないが、子供自身がどう考えているか話を聞き、その上で良い方法を一緒に考えること。
- ・自分で考え、努力し、悩むものであり、その力を身につけてほしい。親がレールを敷くのはおかしいと思う。
- ・セミナーなどをして興味を持っていないと意味がないと思うので、就職することの大切さを学んで欲しい。
- ・いろんな職業に従事している人がいるからこそ、社会が成り立っていることに気付かせること。
- ・大人がそれぞれの仕事にプライドを持って勤めていることを、子供に見せてあげる。まずは親の姿を知ってもらうことが重要である。
- ・遊ぶこと、勉強、運動、すべてにおいて何事も経験であり、好きなことを沢山することも良いと考える。
- ・現在就職している先輩たちの活動や情報などを聞くことも、現実を知る事の教材になるのではないか。
- ・幼少の頃から世の中にどんな仕事があって、どのように役に立っているのか、聞いて知ったり出来る機会を、出来るだけ多く設けることが有効である。
- ・企業の情報が得られるイベントや体験等から、自分に合う仕事が見つかるきっかけが大切である。
- ・将来的に本人のしたい職業に就けるよう、最低でもその段階をあげる為に専門学校から就職させてあげたい。
- ・コミュニケーションが苦手な面が見られるので、様々なサークル・セミナーに参加し、情報交換や意見の交換を多く持たせる。自分の意見を気軽に話せるような場。
- ・まだ何もわからない状態なので、友達との会話で参考にするようなことを見つけられれば良い。
- ・生活（衣・食・住）に困っていないため重大に受け止めていない。働くことの大切さ、お金をもらうことの大切さを、これから勉強していくのではないか。
- ・アルバイトなどの実践で働く環境を与える。そこで給与をもらい、どう考えるか、という経験をさせる。「あんなに頑張ったのにこれだけ」「あのくらいの仕事でこれだけ給与をもらえた」など、本人が感じる事が大切。
- ・家族で今起きている事などを参考に対話を持ち、コミュニケーションを図り経験談などを話す。

- ・ニュースや身の回りから得る現状を知る機会を多く与えると共に、専門性が必要なことを伝える。その情報を得るためのチャンスを親がよく調べておき、参加させる。
- ・日頃から子供をよく見ている親が、その子の良いところ・得意なことを伝えて、それに繋がる職業の情報を与えてあげる。
- ・まだ子供が小さいので、具体的には何も進んでいない。現状では、沢山の経験を通して何か自分に自信を持ってもらえることが大切だと考え、多方面でその場にあった多くの引き出しを持って欲しいと考えている。
- ・就職に必要なプロセス、コミュニケーションスキル、向上心、努力目標、就職先のビジョン、理念の共有。
- ・就職する意味を理解するため、考え方や良い影響を与える先輩との関わりが重要である。
- ・親の働く様子を見せる。会話を増やす。中学生になってからは給料の話もする。
- ・授業の中でも就職に関する授業があれば、もっと意識が向上するのではないか。
- ・小さなうちから、働かなくては食べていけない、という事を子供に理解させるべき。
- ・働いて得たお金で、自分の将来に楽しみや希望を持つことが出来ることを伝える。
- ・社会での活動に参加する。親、地球、国とイメージを広げられるように関わる。
- ・学校での「働く」ということに対する教育を小学校のうちから行うと良い。
- ・自身の独立性の向上をさせるためにはどうしたら良いのか私も迷っている。
- ・大工場を見学するのも大切だが、手仕事の素晴らしさも子供に知ってほしい。
- ・OBの話。実際にやっている仕事を具体的に楽しく紹介してくれる内容。
- ・本人がやりたい職業に対して、親子で調べたり話し合う機会を多く作る。
- ・セミナーによる情報提供やインターンシップの実施が必要である。
- ・経済状況が上向きであり、活発性があることをアピールして欲しい。
- ・小さいときからお金や物の大切さを教える。色々な仕事に触れさせる。
- ・学校などで常に進路・就職などに関心を持たせるようにして欲しい。
- ・子供が小さい頃から、将来の夢など興味のあるものを持たせること。
- ・製造業であれば、その会社が作っている製品に興味を持てること。
- ・一番長く続く仕事が自分にとって適職である、と考えている。
- ・興味のあることから、徐々に進みたい道を調べていきたい。
- ・職業に通じる具体的な道筋や、勉強の仕方を教えて欲しい。
- ・社会人としての自立。親の姿をしっかりと見せていくこと。
- ・モチベーションを高めるためのセミナー。日々の家族間の会話。
- ・キャリア教育の充実・インターンシップ等の計画的実施。
- ・生きていく上で仕事をするのが、いかに大事かを教える。
- ・アルバイトなどを通じて社会との接点を多く持つこと。
- ・工場見学、企業見学（コースになっていないもの）。
- ・同世代でのディスカッションなどが有効である。
- ・中学校で社会人を招いての話等を何回も聞く。
- ・職業観、勤労観を日常生活の中で伝える。 ・何かあるたび子供と向き合って話をする。
- ・大学卒の先輩によるディスカッション。 ・自分の興味のあることを明確にする。
- ・何をやりたいかを一緒に考えること。 ・社会の仕組みをもう少し理解させる。

- | | | |
|------------------------|----------------------|------------|
| ・ 色々な大人との会話やコミュニケーション。 | ・ 社会見学等を学校教育にて取り入れる。 | |
| ・ 各職業の映像等での情報提供。 | ・ 小学校からのキャリア教育。 | |
| ・ 指導する先生方の質の向上。 | ・ 楽しいと思う仕事をさせる。 | |
| ・ ヒーリング、会話。 | ・ ものづくり体験。 | ・ 色々な社会活動。 |
| ・ 本を読むこと。 | ・ メディア。 | ・ 親の洗脳。 |
| ・ 苦勞。 | | |

IV まとめ

1 保護者の意識

(1) 産業観

保護者が将来性や発展性を感じる本道の産業は、「農・林業」、「宿泊・飲食サービス業」、「食料品製造業」といった、「食」「観光」関連の産業である一方、子どもに就かせたい産業としては、「医療・福祉」、「公務員」となっており、将来性を感じる産業と子どもに就かせたい産業には、大きなギャップが生じている。

一方で、子どもに就かせたい産業に関する項目について、一番回答が多かったのは、「こだわりはない」であり、親としての希望よりも子供の意思を尊重するとした保護者が多く、また、親の職種の影響もさほど大きくはなかった。

(2) 職業観の形成

就職について具体的に考える時期は、中学1年～高校2年の間とした保護者が全体の7割以上を占め、実際の進路決定が下される高校3年時以前に考えるべきとする保護者の多いことがわかった。

また、就職についての会話内容では、子どもの年齢が低いほど「将来やりたいことについて」の会話が多くの一方で年齢が上がり就職する年代に近づくにつれ「就職活動の方法」や「家庭の経済状況」など具体的・現実的内容の会話をするようになることが伺える。

この他、子どもの最終学歴については、「高校まで」とする割合が、高校1～2年の子どもを持つ保護者で18.4%であるのに対し、高校3年の子どもを持つ保護者では36.2%になっている。このことは、高校2年まで子どもの進路を「大学進学」や「特にこだわらない」などとしていた保護者も、高校3年になると高校卒業後に就職してほしいと考えるようになることが伺え、子どもの就職について検討する時間が十分に確保できているか懸念される。

(3) 希望就職地

希望就職地域については、子どもの年齢が上がるにつれ地元志向が強まる傾向が認められると共に、圏域別の比較においても道央圏を除く各圏域において地元志向の強いことが伺える。

(4) 製造業との関わり

保護者の製造業見学経験や就業経験の有無と製造業に対して感じる「将来性・発展性」との関連では、その割合に経験の有無による大きな差異は見られなかった。一方、「子どもに就かせたいと考える職業」との関連では、製造業見学のある場合は、ない場合の約3.1倍であり、就業経験のある場合は、ない場合の約1.9倍であることから、見学などにより、ものづくり産業を知ってもらうことは一定程度の効果があることが伺える。

(参考：図-12、図-13、図-23、図-24)

製造業見学経験	有り	無し	有無の比較
製造業に将来性・発展性を感じる割合	20.1%	15.5%	1.30 : 1
製造業を子供に就かせたいと考える割合	5.2%	1.7%	3.06 : 1

製造業就業経験	有り	無し	有無の比較
製造業に将来性・発展性を感じる割合	21.0%	17.4%	1.21 : 1
製造業を子供に就かせたいと考える割合	6.0%	3.1%	1.94 : 1

2 今後の取組

(1) 保護者向け対策

- 将来性や発展性を感じる産業と子どもに就かせたい産業には大きな乖離があるが、このことは製造業も同様で、18.9%の保護者が製造業（食料品製造業、金属・機械器具製造業、その他の製造業の合計）に将来性を感じており、この数値は、農業・林業の21.9%に次ぐ高い評価となっている一方、子どもに就かせたい職業について、製造業は、4.3%と低い数値になっている。（図-10、図-21）

ただ、製造業の見学の有無による調査結果では、見学経験のある保護者が子どもを製造業に就かせたい割合は、経験のない保護者の3.1倍程度になっており、製造業の見学については一定程度の効果がある結果が得られた。

このようなことから、製造業における経営改善や就労環境の整備など、保護者が持っている製造業への将来性を、現実の就職先として結びつけるための取組が必要と考えられるが、このような取組と相まって、製造業に対する理解を深める取組を進めることが必要と考えられる。

■工場など製造現場を活用した情報提供

（親子による工場見学会 など）

■各種媒体などを活用した情報提供

（冊子による企業活動や施設、就業条件等紹介 など）

■企業在職者による情報提供

（PTA集会等の場を活用したものづくり産業の理解を深めるセミナー など）

- 職業について具体的に考える時期については、中学1年から高校2年の間とした保護者が多く、職業についての会話内容では、年齢が上がるにつれて具体的・現実的な内容になっていた。

また、子どもの進路については、高校卒業を最終学歴として希望する保護者が高校3年の段階で大幅に増加している結果となり、高校卒業後の就職について、十分に検討してあげられる時間が確保されているか懸念される状況であった。

このようなことから、保護者が就職に関する基本的な知識を習得するとともに、子どもの就職にあたって適切な指導ができるための取組を進める必要があると考えられる。

■キャリアカウンセリングに関する基礎知識の提供

（キャリアカウンセラー等による講演 など）

■就職に関する情報提供

（合同企業説明会 など）

- 子どもの希望就職地域については、子どもの年齢が高くなるにつれて、地元志向が強まる傾向にあり、このことが雇用のミスマッチにつながっている一因とも考えられることから、地元以外の企業に対する理解・知識を深めてもらうための取組が必要と考えられる。

■地元以外の企業に関する情報の提供

(冊子などの媒体を活用した企業の紹介、企業見学会 など)

(2) 子ども向け対策

- 子どもに就かせたい職業で一番回答が多かったのが「こだわりのない」であり、子どもの主体性を尊重した進路選択を重視している保護者が多い結果となった。
また、製造業に子どもを就かせたいとする理由で一番多かったのが「子どもがものを作るのが好き」であった。
このようなことから、子どもが主体的に職業を考えられるようなキャリア形成に向けた取組を進めるとともに、製造業への理解を深めるための取組を進める必要があると考えられる。

■キャリア教育の充実に向けた取組の推進

(インターンシップ、保護者の職場見学会 など)

■就職支援に向けた取組の推進

(キャリアカウンセラー等による講演、合同企業説明会 など)

■就職相談等に関するイベントの情報提供

(適職や働く意義等に関するセミナー、OB等による体験講演会 など)

■ものづくり産業理解促進に向けた取組の推進

(工場見学、ものづくり体験会、企業技術者等による実演 など)

保護者対象：子供の進路や就業観に関する意識調査

(実施期間：平成22年10月～12月)

この調査は、小・中・高校生を子供に持つ保護者の皆様の、子供に対する進路や就業観並びに製造業に対し日頃抱いているイメージを明らかにし、結果内容を人材育成における課題検討の際の基礎資料とするものです。
この調査票は、個別に公表することがありませんので、ありのままをご記入下さい。ご多忙のところ恐れ入りますが、ご協力をお願いいたします。

※ ご回答にあたってはワクの中に「数字」でご記入下さい。また、「その他」を選んだ場合には、【 】に記入をお願いします。

問1 あなたの性別 (1. 男性 2. 女性)

問2 あなたの年齢 (1. 29歳以下 2. 30～39歳 3. 40～49歳 4. 50～59歳 5. 60歳以上)

問3 家計を支えているお仕事

- (1. 農業・林業 2. 漁業 3. 建設業 4. 食料品製造業 5. 金属・機械器具製造業 6. その他の製造業
(前記4,5以外) 7. 情報通信業 8. 運輸・郵便業 9. 卸・小売業 10. 金融・保険業 11. 宿泊・飲食
サービス業 12. 教育・学習支援業 13. 医療・福祉 14. 公務員
15. その他【 】)

※ 「その他」には現在無職であることも含みます。

問4 お子さんの学年及び性別(※全てのお子さんの分をご記入下さい。)

- (1)小学校(1. 1年男子 2. 1年女子 3. 2年男子 4. 2年女子 5. 3年男子 6. 3年女子
7. 4年男子 8. 4年女子 9. 5年男子 10. 5年女子 11. 6年男子 12. 6年女子)

- (2)中学校(13. 1年男子 14. 1年女子 15. 2年男子 16. 2年女子 17. 3年男子 18. 3年女子)

- (3)高校(19. 1年男子 20. 1年女子 21. 2年男子 22. 2年女子 23. 3年男子 24. 3年女子)

- (4)その他(25. 未就学児童 26. 高専・短大・専門学校・大学 27. 社会人 28. その他)

問5 あなたは、過去に製造業に係る企業・工場などを見学したことがありますか。

- (1. ある 2. ない)

問6 あなたは、現在までに製造業で、正社員・パート・アルバイトを問わず働いた経験がありますか。

- (1. ある 2. ない)

問7 あなたは、どの産業に北海道における将来性や発展性が感じられますか。3つ以内でお選びください。

- (1. 農業・林業 2. 漁業 3. 建設業 4. 食料品製造業 5. 金属・機械器具製造業 6. その他の製造業
(前記4,5以外) 7. 情報通信業 8. 運輸・郵便業 9. 卸・小売業 10. 金融・保険業 11. 宿泊・飲食
サービス業 12. 教育・学習支援業 13. 医療・福祉 14. 公務員
15. その他【 】)

問8 あなたは、お子さんの就職について、どの学年のあたりから具体的に考えてあげるのが良いと思いますか。

- (1. 小学入学前 2. 小学1～2年 3. 小学3～4年 4. 小学5～6年 5. 中学1～2年
6. 中学3年 7. 高校1～2年 8. 高校3年 9. 高専・短大・専門学校・大学)

問9 家庭内でお子さんと就職について話をする場合は、主にどなたになりますか。

- (1. 父親 2. 母親 3. 両親 4. 父母以外の家族)

問10 現在、就職に関しお子さんと会話をされている場合は、どのようなテーマが話題になっていますか。
3つ以内でお選びください。

- (1. 将来やりたいことについて 2. 働く意義について 3. 適職について 4. 学歴と職業について
5. 就職する時期(中卒、高卒、大卒)について 6. 就職活動の方法について 7. 家庭の経済状況について
8. 特に就職の話はしていない 9. その他【 】)

問11 問10で「8」を選んだ方へお聞きします。

将来、就職に関するお子さんとの会話では、どのようなテーマが重要であると考えますか。3つ以内でお選びください。

- (1. 将来やりたいことについて 2. 働く意義について 3. 適職について 4. 学歴と職業について
5. 就職する時期(中卒、高卒、大卒)について 6. 就職活動の方法について 7. 家庭の経済状況について
8. その他【 】)

--	--	--

問12 あなたがお子さんに就かせたいと思う業種は何ですか。3つ以内でお選びください。

- (1. 農業・林業 2. 漁業 3. 建設業 4. 製造業 5. 情報通信業 6. 運輸・郵便業 7. 卸・小売業
8. 金融・保険業 9. 宿泊・飲食サービス業 10. 教育・学習支援業 11. 医療・福祉 12. 公務員
13. こだわりはない 14. その他【 】)

--	--	--

→問13 **問12で「4. 製造業」を選んだ方**へお聞きします。

製造業を選んだ理由に当たるものを下から3つ以内でお選びください。

- (1. 日本の基幹産業である 2. 魅力を感じる 3. 子供がものを作ることが好き
4. 親(自身)が製造業に従事 5. 地元に工場があり自宅から通勤できる
6. その他【 】)

--	--	--

→問14 **問12で「4. 製造業」を選ばなかった方**へお聞きします。

製造業を選ばなかった理由に当たるものを下から3つ以内でお選びください。

- (1. 危険・きつい・汚いという3Kのイメージがある 2. 将来性が感じられない
3. 「工場」のイメージが暗い 4. 非製造業の方が給料・福利厚生などの待遇が良さそう
5. 制服が作業服である 6. 興味がない
7. その他【 】)

--	--	--

問15 あなたのお子さんの就職先として、希望する地域はどこですか。

- (1. 地元(札幌圏を除く) 2. 札幌圏 3. その他道内地域 4. 道外 5. その他【 】)

--

問16 あなたは、お子さんの就職先の選定条件として何を一番大切に考えますか。3つ以内でお選び下さい。

- (1. 知名度 2. 給与 3. 大企業 4. 勤務地 5. 福利厚生 6. 安定性 7. 家業
8. その他【 】)

--	--	--

問17 あなたは、お子さんに対し、最終学歴はどこまで希望しますか。

- (1. 高校 2. 専門学校 3. 短大 4. 大学 5. 大学院 6. 特にこだわらない)

--

問18 あなたは、お子さんの就職に対する意識を向上させるには、どのような方法が有効と考えますか。【自由記載】

(ex. セミナーによる情報提供、インターンシップの実施、……)



ご協力ありがとうございました。

<お問い合わせ先>

キャリアバンク株式会社 雇用創出事業部 担当者：豊田 加畑 電話：011(251)3353 FAX：011(251)3369
--

ものづくり産業理解促進事業 アンケート報告書

製 作 キャリアバンク株式会社

〒060-0005 札幌市中央区北 5 条西 5 丁目 7 sapporo55

TEL : 011-251-3357 FAX011-251-3369